

部 報

平成24年度 No.58

北海道大学馬術部



◆ 目 次 ◆

巻頭書	井上 京	2
前主将より	江口 遼太	3
活動報告		4
調教報告		
北創号	平芳 悠人	15
北焔号	江口 遼太	17
北凜号	山川 晃平	18
北柊号	柳田 睦仁	21
北菓号	江口 遼太	23
北藍号	平芳 悠人	25
北兎号	平芳 悠人	26
チェリーアドミラル号	宮田 昇太	27
入厩報告		
北魁号	小山 寛	29
北騷号	平芳 悠人	30
離厩報告		
北煌号	西村 英里	31
北椎号	加藤亜也奈	32
北鳳号	柳田 睦仁	33
北彗号離厩特集		36
北水報告	田中 千尋	41
卒部にあたって		42
部員紹介		47
OB名簿		55
現役部員名簿		69
編集後記		72

巻頭書

もっと声を出そう

井上 京

ベテランの馬乗りには声の大きな人が多い。特に普段、部班で号令をかけている人に声の大きな人が多い。そのうち普段の声まで大きくなる。いつも大きな声で号令と指示を出すからにちがいない。

熟練の号令者は人に号令を出しているだけではない。声の調子で馬にも指示を伝えている。号令者が意識していなくとも、馬は号令を聞いている。動きのいい部班運動をさせたいければ、号令者は自分の声の調子も工夫してみると良い。

あいさつも、大きな声の方が良い。それも先手必勝で、自分から先にあいさつするに越したことはない。あいさつは、相手と自分の間の関係を確認し継続発展させようという気持ちの表れだ。もし相手を知ろう、なんらかの関係を築こう、その関係を良好にしようという気持ちがないのであれば、あいさつなど出てこない。元気なあいさつは、それだけで相手との関係をつくりだすことができる。それを自分からするか、相手に先にされてしまうか、で関係性まで左右されてしまう。あいさつ上手な人はきっとそれだけで人生の達人になる入口に立っている。

あいさつの対象は人に限ったことではない。馬にもあいさつをしよう。馬どうしだって放牧に出されたときにはまずおたがいにあいさつしているではないか。あいさつによっておたがいの関係を確かめているではないか。

そして馬ともっと話をしよう。馬はいつも人の動きに注意を向けている。声の調子を聞き分けているに違いない。だまって何かをされるよりは、人の声が聞こえてくれればずっと安心できるはずだ。声の扶助という言葉があるくらいだから、それを使わない手はない。馬上にあるときだけでなく、下にいるときにもどんどん声をかけてやればいい。人がやさしく穏やかな声をかけることで馬もリラックスできる。

帯広畜産大学馬術部のコーチだった呑平泥さん（杉山淳さん）が著された「乗馬調教のための馴致」という小冊子に、呼び馬という項目がある。馬の馴致を容易にするための一つとして、人に呼ばれたら近寄ってくるように習慣づけるだけのことだが、あまりやっている人はいないのではないかと放牧された馬はみずからは地べたに置かれた横木すらまたがないものだけでも、呼び馬がうまくできるようになると低い横木くらいは飛んで寄ってくるようになる。そうやって馬と遊ぶことができるようになると、いろんな馴致にも応用できる。

人と人、人と馬、明晰な声は大事なコミュニケーションの道具です。コミュニケーションによって関係は築かれます。あなたの馬はあなたの声を覚えていますか？

前主将より

江口 遼 太

昨年は馬13頭、部員25人の体制で1年間活動しました。競技面では北創・北焔・北柊の3頭が二回走行で、北創・北凜の2頭が総合で全日学の権利を獲得し全日本学生に出場しました。前年と同様、二回走行は団体で出場することはできましたが、前年以上の成績を残すことはできず悔しい結果となりました。北創と平芳が二回走行、総合ともに入賞という成績を残し、北柊・北凜といった生え抜きの馬たちが2年連続で全日学に出場できたことは今後に期待が持てる結果となりました。

運営に関しては、様々な変化の中で部活を安定させるのが難しい年となってしまったように思います。競技志向ではない部員の増加に伴い、そのような部員でも続けていけるような部活づくりを行いながらも、部の目標としての全日学はぶれずにそこに向かって団結していくことを理想としてやってきました。しかし、そのような目標意識がはっきりとせず、モチベーションを保つのが難しい部員も出てきてしまい、部全体で全日学を目指すという一貫した軸が作れなかったのが実際でした。こういった点に関しては今後の課題として、新しい代が主将や最上級生を中心にまとまって目標に向かっていける部活をつくっていってくれることを願います。

また、昨年は北隼・北椎・北煌・北鳳という北大で様々な形で長年活躍してくれた馬たちが離脱しました。北大馬術部に貢献してくれた馬たちでしたが、状態の維持が難しくなったり故障による跛行が多くなったりと馬術部で今後も乗り続けるのは難しいと判断し、少しでも元気なうちにほかの場所で活躍してほしいと考えての離脱でした。私たちの判断に理解を示していただいたOBの方々、離脱先として快く北大の馬を受け入れてくださった馬術関係者の方々に御礼申し上げます。それぞれの馬が、乗馬クラブなど新たな場所で幸せに生活し活躍してくれればと思います。

最後に、1年間馬術部を運営してこられたのは部員同士支えあい、さらにOBや馬関係の方々を支えてくださったおかげです。現役部員のことを気にかけてくださった皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。そして、これからの現役部員がお互いに支えあってより良い馬術部を作っていくことを期待し、今後の馬術部のますますの発展をお祈りします。

活 動 報 告

《主将》

平 芳 悠 人

今年のテーマは「きれいにする」です。

物理的にだけでなく、精神的にもきれいにする必要があると思っています。

部室・厩舎・部員の心・馬の心…。この他にもきれいにしなければならないものはたくさんあります。偉そうなことを言ってますが、もちろん私自身も含めてです。私はこの部を一度壊したいと思っています。もちろん壊すと言っても、本当に壊す訳ではありませんが…。

余計なものを取り払って、本当に大事なものが何なのかをしっかりと考えてやっていきたいと考えております。

きっと多くの方にとって理解のできない主将となると思いますが、どうか暖かく見守っていただきますようよろしくお願いいたします。

《副将》

東 谷 貴

副将の仕事は一言で言えば、部活全体を見ることだと思っています。

今年は4年生が3人と非常に少ないこともあり、部活が繁栄していくためには下級生、特に3年生が頑張って部活を盛り上げていく必要があります。その3年生のトップとして、4年生のサポート、後輩の指導、外部の方との連絡等様々な方向から部活が良くなるように日々精進して参りたいと思います。

《主務》

高 居 名 菜

主務として、厩舎、部室等の施設の管理、部活運営の事務面を行ってきました。部室は畳を全てかえていただき、大掃除も同時に行ったため大変きれいになりました。厩舎は馬栓棒の不足や洗い場の給湯器、裏戸の不備など長らく放置していた設備を修理しました。裏戸に関しては直してもすぐに壊れてしまうため、こまめな点検と改善が必要であると思います。また馬場の砂は副務を務めていたときから何度か学校側に検討をお願いしましたが、財政状況から今後数年は無理とのことでした。他の方法を考えなくてはなりません。担当者には今後も辛抱強く学生支援課に通い続けてもらいたい。部活運営では10月の大会として新たに、ほくだいホースショーを開催

し、多くの団体に参加していただきました。今年度は問題点が多く見え主務として反省の多いものとなりました。今後改善していくと同時に、新しい大会なので後輩には良いと思うことをどんどん取り入れていてもらいたいと思います。

馬術部は大学、OBの方々、乗馬連盟、乗馬クラブなど多くの方々の援助により成り立っています。そのことを常に意識し、大会運営の場でも部員一人一人が北大馬術部として恥ずかしくない行動をとるよう指示していきます。

《馬匹》

佐藤詩織

昨年度起きた出来事として、北凜号の放牧中の怪我がありました。北日本学生大会まで間もない時期でしたが、ノーザンホースパークに入院させていただき、無事競技に出場できるほどに回復することができました。ノーザンにお勤めの川崎さんには大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

この事故を顧みて、馬匹の先輩方のおっしゃるとおり、怪我や病気に対し「予防」を徹底することが大切であると感じました。放牧場は馬のストレス発散の場であるとともに怪我の起こりやすい場でもあります。放牧場のほかにも馬房や馬繋台など、馬のいる環境に危険因子があった時それに気付くことであったり、より安全にするための工夫を考えることが大切です。また、チーフをはじめ部員一人ひとりが馬をよく観察し、馬の“正常”を知っておくことが必要です。疝痛や感染症など病気の時にいち早く馬の変化に気づき、迅速な対応をとれなければなりません。

病気の予防に、まずよく馬を観察すること、そして広く回りを見渡すこと、の両方を普段の活動の中で当たり前に行えるよう、皆で意識を高めていきたいと思います。

《後援会》

梶山恭子

今年は例年通り、年間4回のコンパを主宰し、OB戦や初乗りなどを通して現役部員とOBの方々との交流を持たせていただきました。多くの方々にご参加いただき、ありがとうございました。

馬術部は全国に散らばる多くのOBの方々及び、特別後援会員の方々のご支援ご声援により存続しており、また、道大会、北日、全日など多くの試合で現役の力となっており、誠に感謝しております。今後とも末長く北大馬術部をよろしくお願い致します。

また、郵送費節約のため、メールによる連絡を進めております。コンパの案内など

の連絡が届いていない方は、お手数をおかけ致しますが、hokudai_bajutsubu_2013@yahoo.co.jpまでご連絡下さい。よろしくお願い致します。

《飼糧》

佐藤詩織

現在馬に与えている飼糧は1食あたりハイキューブ約1kg、燕麦約1kg、ふすま0.3kg、NB（ノーサンバランサー）0.1kgと塩大さじ1杯で、1日3回に分け給餌しています。またハイキューブとふすまはお湯でふやかして与えています。上記に加え、乾草約1.5kgを朝・昼・夕・夜の4回与えています。

飼料は明治飼糧さんから購入しています。また、乾草は長岡さんからバイト代としていただいている他、山本ファームさんから購入しています。ポロ山は4月、11月に北大農場に回収していただいています。

《会計》

藤村伊咲

今年は収入が支出を上回るという良い結果となりました。

この状態を維持できるよう部員一同協力し合うのはもちろんのことですが、これからもOBOGの方々にはご理解、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

2012年1月～12月 会計報告

収入

部費	1,440,000
モモセバイト代	352,750
競馬場バイト代	2,044,834
セレクトセールバイト代	104,000
トレーニングセールバイト代	341,000
お祭りバイト	40,000
中曽根さんバイト	85,600
ノーザンバイト	97,790
オータムセールバイト代	230,000
北海道乗馬連盟乗馬振興金	23000
北海道大会役務費	616,365
フレンドリー収入	465,000
半澤杯収入	369,600
ほくだいホースショー収入	94000
体育会強化費	20,000
全日本学生馬術連盟	561,000
寄付	105,000
ハイジ牧場バイト代	273,200
そのたバイト代	172,160
そのた	235,000
計	7,670,299

支出

衛生	30,084
企画	88,452
北日幹事	78,380
後援会	39,821
交通	644,720
作業	76,649
雑費	1,024,898
車両	751,204
飼料	2,659,705
大会関係	174,967
通信	32,859
装蹄	809,062
馬備	24,804
馬匹	343,430
ビデオ	13,690
薬品	65,612
計	6,858,337

◆ 2012年度 戦績 ◆

●第40回 半澤杯記念馬術大会

☆80cmクラス				減点	タイム		
1位	山田 杏奈	シルバーデューク	JRA札幌競馬場スポーツ少年団	0	55.72		
2位	三浦 薫徳	エイトブレイブ	JRA札幌競馬場スポーツ少年団	0	66.22		
3位	日野 弘志	スズカタイフーン	JRA札幌競馬場	0	66.91		
4位	加藤 亜也奈	北椎	北海道大学(4)	0	68		
14位	柳田 睦仁	ヤマニンエレメント	北海道大学(4)	3反E			
☆60cmクラス				減点	タイム		
1位	佐藤 実緒	ニホンピロファイブ	JRA函館競馬場	0	74.9		
2位	住谷 克也	マキシマムブレイズ	酪農学園大学	0	72.53		
3位	舟田 亮太	マキシマムブレイズ	酪農学園大学	0	71.53		
5位	宮田 昇太	コレディノダ	北海道大学(4)	1	79.16		
7位	宇佐美 洋夢	コレディノダ	北海道大学(2)	6	82.88		
9位	柳田 睦仁	ヤマニンエレメント	北海道大学(4)	8	73.22		
12位	梶山 恭子	コレディノダ	北海道大学(2)	16	109.03		
☆複合馬術				得点率			
1位	平芳 悠人	北創	北海道大学(3)	52.528			
2位	柳田 睦仁	北柊	北海道大学(4)	51.034			
3位	平野 優	驃麗	酪農学園大学	50.344			
☆複合馬術競技 障害飛越競技110cmクラス(太奏杯)				減点	タイム		
1位	平芳 悠人	北創	北海道大学(3)	0	64.75		
2位	柳田 睦仁	北柊	北海道大学(4)	0	67.32		
3位	平野 優	驃麗	酪農学園大学	0	65.13		
☆複合馬術競技(太奏杯)				馬場減点	複合減点		
1位	平芳 悠人	北創	北海道大学(3)	71.21	71.21		
2位	柳田 睦仁	北柊	北海道大学(4)	73.45	73.45		
3位	平野 優	驃麗	酪農学園大学	74.48	74.48		
☆110cmクラス(岡田杯)				減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	梁川 正重	グラン・ルージュ	札幌乗馬倶楽部	0	67.5	0	49.5
2位	柳田 睦仁	北柊	北海道大学(4)	0	68.34	0	54.4
3位	間 裕	シルバーデューク	JRA札幌競馬場	0	68.28	4	50.44
☆100cmクラス(河田杯)				減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	出戸 裕人	ラビットハート	RCメインフィールズ	0	65.94	0	54.28
2位	川島 純子	レガート9	白井牧場不二ファーム	0	70.1	0	56.87
3位	瀬戸 雄大	ロガッシュ	酪農学園大学	0	70.34	0	58.65
7位	宮田 昇太	チェリーアドミラル	北海道大学(4)	0	73.21	0	61.63
10位	松尾 慧	チェリーアドミラル	北海道大学(3)	4	73.4		
☆90cmクラス(小池杯)				減点	タイム		
1位	山田 杏奈	シルバーデューク	JRA札幌競馬場スポーツ少年団	0	58.34		
2位	三浦 薫徳	エイトブレイブ	JRA札幌競馬場スポーツ少年団	0	64.56		
3位	佐野 颯太	オーデンセ	JRA札幌競馬場スポーツ少年団	0	65.46		
9位	小山 寛	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	0	73.22		
☆70cmクラス(井上杯)				減点	タイム		
1位	梁川 正重	アロキヤン	ほくせい乗馬クラブ	0	73.06		
2位	羽二生 香成	ニホンピロファイブ	JRA函館競馬場	0	71.47		
3位	山内 逸平	ニホンピロファイブ	JRA函館競馬場	0	70.97		
4位	山川 昇平	ヤマニンエレメント	北海道大学(4)	0	69.19		
6位	加藤 亜也奈	北椎	北海道大学(4)	1	75.38		
8位	平芳 悠人	北禰	北海道大学(3)	2	79.47		
9位	山谷 亮介	北禰	北海道大学(2)	2	80.91		
10位	荒井 冬香	北椎	北海道大学(2)	2	81.82		
12位	東谷 貴	北禰	北海道大学(2)	4	72.81		
14位	笹原 良平	北禰	北海道大学(2)	4	73.72		
20位	古満 まりの	北椎	北海道大学(2)	23	144.22		

●新緑馬術大会

☆標準中障害D				減点	タイム
10位	柳田 睦仁	北柊	北海道大学(4)	4	69.96
☆標準中障害C				減点	タイム
4位	平芳 悠人	北創	北海道大学(3)	8	64.04
☆標準小障害C				減点	タイム
1位	平芳 悠人	ビービーバンス	北海道大学(3)	0	65.71
☆ステップアップジャンピング				減点	タイム
4位	宇佐美 洋夢	北禰	北海道大学(2)	0	65.51
6位	古満 まりの	北禰	北海道大学(2)	2	82.15
8位	平芳 悠人	北禰	北海道大学(3)	4	90.06
10位	荒井 冬香	北禰	北海道大学(2)	8	91.5
☆標準小障害C part2				減点	タイム
4位	松尾 慧	北禰	北海道大学(3)	0	76.03
5位	東谷 貴	北禰	北海道大学(2)	0	77.59
☆第3課目B				得点率	
14位	柳田 睦仁	北柊	北海道大学(4)	44.637	
☆2スターA				得点率	
1位	平芳 悠人	北創	北海道大学(3)	59.194	
2位	山川 晃平	北凜	北海道大学(4)	57.93	

●第47回 北海道春季馬術大会

☆標準小障害A				減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	半田 佑介	シャンパーニュ	大樹ライディングクラブ	0	87.95	4	46
2位	楠木 貴成	デルタブルース	ノーザンファーム	0	84	12	40.14
3位	今野 紗保理	駿劉	酪農学園大学	0	79.1		
9位	山谷 亮介	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	5	87.73		
15位	宮田 昇太	チェリーアドミラル	北海道大学(4)	8	105.29		
17位	江口 遼大	北焰	北海道大学(4)	経路E			
☆公認競技標準中障害D				減点	タイム		
1位	柳田 睦仁	北柊	北海道大学(4)	0	83.95		
2位	出戸 裕人	ラビットハート	RCメインフィールズ	4	82.65		
3位	梁川 正重	トウカイカムカム	札幌乗馬倶楽部	8	80.85		
5位	山川 晃平	北凜	北海道大学(4)	12	81.45		
☆標準中障害D				減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	高野 文彰	ヴィクトワール	乗馬クラブテキーラ	0	74.07	0	34.51
2位	白井 岳	アミュレット	白井牧場不二ファーム	0	80.53	0	36.54
3位	橋本 英之	サニー	ノーザンファーム	0	78.37	4	37.22
4位	江口 遼大	北焰	北海道大学(4)	0	87.68	4	38.22
12位	佐藤 敬近	北柊	北海道大学(2)	8	78.93		
☆公認競技標準中障害C				減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	梁川 正重	グラン・ルージュ	札幌乗馬倶楽部	4	75.74	0	35.4
2位	平芳 悠人	北創	北海道大学(3)	4	78.39	8	34.6
3位	百瀬 利宏	ビッグシャトル	モモセライディングファーム	4	86.04	8	40.04
☆公認競技標準中障害B				減点	タイム		
1位	平芳 悠人	北創	北海道大学(3)	0	88.37		
2位	田口 貴也	キャラメロG	中村宏厩舎	4	88.82		
3位	広瀬 祥吾	ウォーター	チェスナットファーム	9	90.29		
☆標準小障害C part1				減点	タイム		
1位	満沢 啓大	ゴーステディ	ノーザンファーム	0	66.26		
2位	中原 捷伍	駿宝	酪農学園大学	0	69.56		
3位	平岡 理香子	サンデーフラッパー	モモセライディングファーム	0	71.84		
4位	古満 まりの	北椎	北海道大学(2)	0	74.32		
5位	加藤 亜也奈	北椎	北海道大学(4)	0	75.21		
☆標準小障害B part1				減点	タイム		
1位	大矢 晏奈	アイビー	十勝柏友会乗馬クラブ	0	64.89		
2位	大矢 晏奈	トカチアトラス	十勝柏友会乗馬クラブ	0	67		
3位	佐藤 詩織	北鳳	北海道大学(2)	0	77.46		
16位	江口 遼太	北菓	北海道大学(4)	8	101.5		

☆小障害A S&H				タイム
1位	黒木 貴子	トカチアトラス	十勝柏友乗馬クラブ	68.57
2位	西原 和郎	ディラクエ	中村宏厩舎	77.89
3位	舟田 亮太	マキシマムブレイズ	酪農学園大学	82.84
12位	松尾 慧	チェリーアドミラル	北海道大学(3)	105.4

☆公認競技中障害D S&H				タイム
1位	山川 晃平	北凧	北海道大学(4)	77.96
2位	梁川 正重	トウカイカムカム	札幌乗馬倶楽部	80.45
3位	柳田 睦仁	北柊	北海道大学(4)	81.6

☆公認競技中障害C				タイム
1位	島山 朋弘	ダンデライオン	三木田乗馬学校	71.47
2位	平芳 悠人	北創	北海道大学(3)	74.06
3位	梁川 正重	グラン・ルージュ	札幌乗馬倶楽部	75.31

☆中障害C S&H				タイム
1位	宮永 美寿津	ミヤノリュウオー	ノーザンホースパーク	81
2位	中村 知世	キャラメロG	中村宏厩舎	82.45
3位	日野 弘志	エイトブレイブ	JRA札幌競馬場	82.56
10位	柳田 睦仁	北柊	北海道大学(4)	91.45

☆公式競技中障害B S&H				タイム
1位	平芳 悠人	北創	北海道大学(3)	78.11
2位	広瀬 祥吾	ウーター	チェスナットファーム	79.76
3位	田口 貴也	キャラメロG	中村宏厩舎	84.71

☆標準小障害B part2				減点	タイム
1位	広瀬 楓	ホワイトマーブル	チェスナットファーム	0	62.84
2位	三浦 圭	騾劉	酪農学園大学	0	72.64
3位	東田 明士	ゴーステディ	ノーザンファーム	0	75.12
4位	東谷 貴	北鳳	北海道大学(2)	0	75.32
9位	荒井 駿	北鳳	北海道大学(2)	4	84.01

☆標準小障害C part2				減点	タイム
1位	水沼 佐和子	アーレーストロークス	ほくせい乗馬クラブ	0	64.37
2位	小山 寛	北椎	北海道大学(2)	0	72.53
3位	平岡 理香子	サンデーフラッパー	モモセライディングファーム	0	77.57
6位	笹原 良平	北椎	北海道大学(2)	4	71.34

●平成24年度 北海道三大学定期交流戦

				減点	タイム	総減点	総タイム
1位	酪農学園大学	井上 瞳	チェリーアドミラル	4	71.44	8	219.75
		深田 琴子	北鳳	4	81.93		
		住谷 克也	北兎	0	66.38		
2位	帯広畜産大学	関口 美加	北鳳	0	65.19	12	209.79
		鬼窪 竣大	北兎	8	77.69		
		松本 隆平	チェリーアドミラル	4	66.91		
3位	北海道大学	宇佐美 洋夢(2)	北兎	4	76.47	12	231.05
		山谷 亮介(2)	チェリーアドミラル	8	73.44		
		笹原 良平(2)	北鳳	0	81.41		

●札幌市民大会

☆地区会長杯障害飛越競技(90)				減点	タイム
5位	荒井 駿	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	4	74.85
6位	梶山 恭子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	4	77.37
10位	松尾 慧	チェリーアドミラル	北海道大学(3)	8	73.87

☆第3課目A				得点率
2位	佐藤 敬近	北兎	北海道大学(2)	46.291

☆第2課目				得点率
8位	東谷 貴	北兎	北海道大学(2)	51.912
10位	梶山 恭子	北兎	北海道大学(2)	51.618
13位	荒井 駿	北兎	北海道大学(2)	49.268

●第37回 北海道馬術大会

☆標準小障害C part1			減点	タイム		
1位	水沼 功	ニキ・ラウダ	0	54.02		
2位	鎌田 彩楓	ホワイトメロディ	0	55.18		
3位	橋本 光	ホワイトメロディ	0	56.12		
24位	加藤 亜也奈	北椎	11	95.88		
☆標準小障害A						
1位	菊池 広郎	フェットウデメゾン	0	69.31	0	39.46
2位	出戸 裕人	ラビットハート	0	66.59	0	39.81
3位	石崎 拓未	駿天狼	0	67.37	0	43.67
17位	江口 遼太	北菓	30	85.07		
☆標準中障害D						
1位	鈴木 重雄	フルオブワンダー	0	73.54	0	35.39
2位	今野 沙保理	駿劉	0	74.68	0	40.32
3位	檜岡 定雄	ホワイトマーブル	0	71.76	12	36.37
16位	山川 晃平	北凜	2反E			

●第48回 北日本学生馬術大会

☆学生賞典総合馬術競技			調教審査	耐久審査	余力審査	総減点
1位	平芳 悠人	北創	61.22	0	0	61.22
2位	奥原 秋津	柏海	66.38	0	4	70.38
3位	中原 捷伍	エベレストクライマ	71.39	0.8	12	84.19
4位	福田 一平	テノリオ	70.86	7.6	8	86.46
5位	今野 紗保理	駿劉	74.65	20	4	98.66
6位	平野 優	駿麗	75.69	20	8	103.69
7位	佐藤 煥	レーヴエトワール	78.96	41.2	12	132.16
8位	山川 晃平	北凜	75.35	72	8	155.35
余力E	舟田 亮太	マキシマムブレイズ	71.21	0	2反E	
インスペクションE	野中 穂	グラスキッド	80.52	160	E	
耐久E	山川 晃平	北凜	66.03	3反E		
耐久E	関口 美加	零	67.59	落馬E		
耐久E	江口 遼太	北菓	68.1	3反E		
耐久E	柳田 睦仁	北柎	68.63	落馬E		
耐久E	新井 千尋	柏爵	71.39	4反E		
耐久E	富士原 光	柏桜	72.75	出場停止		
耐久E	奥原 秋津	柏峰	77.58	3反E		
耐久E	石崎 拓未	駿天狼	77.76	3反E		
耐久E	福島 由子	バンコジーロ	80.52	4反E		
耐久E	佐々木 遥菜	チュルク・タシ	83.63	3反E		

☆学生賞典障害飛越競技

			1走目タイム	1走目減点	2走目タイム	2走目減点	合計タイム	総減点
1位	平芳 悠人	北創	78.43	8	80.9	8	159.33	16
2位	影山 敦	柏嵐	82.86	8	97.1	14	173.96	22
3位	富士原 光	柏桜	71.4	20	95.75	22	167.15	42
4位	江口 遼太	北焔	75.09	28	102.89	23	177.98	51
5位	福田 一平	テノリオ	100.39	47	103.82	44	204.21	91
落馬E	大迫 敬史	雪嵐	77.71	20				
落馬E	奥原 秋津	柏海	80.32	12				
落馬E	鈴木 裕美	シャンソン・シセル						
落馬E	佐藤 煥	レーヴエトワール						
2反E	新井 千尋	柏爵	79.28	8				
2反E	柳田 睦仁	北柎	97.39	14				
2反E	平野 優	駿麗	80.17	28				
2反E	小林 真梨子	雪勇						
2反E	加賀谷 悠	ブライト・オア						
2反E	山川 晃平	北凜						
2反E	富士原 光	柏楓						

☆小障害飛越競技A

			減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	三浦 圭	駿劉	0	57.86	4	51.06
2位	瀬戸 雄大	ロカッシュ	4	52.96		
3位	山谷 亮介	北柎	4	58.78		
6位	笹原 良平	チェリーアドミラル	4	63.68		
2反E	東谷 貴	チェリーアドミラル				

☆小障害飛越競技B

			減点	タイム
1位	大八木 利徳	ハリケーンジャズ	0	52.72
2位	村山 優一	ラ・カスターニャ	0	52.82
3位	山口 洋	ブライト・オア	0	54.32
6位	小山 寛	北兎	0	58.31
10位	荒井 駿	北兎	0	61.42
OPEN	平芳 悠人	北兎	4	60.68

☆第3課目B				得点率
1位	大迫 敬史	雪鐘	北里大学	61.593
2位	遠藤 李香	福燕	福島大学	54.637
3位	小番 彩羽	雪雅	北里大学	54.419
12位	宇佐美 洋夢	北克	北海道大学(2)	44.057

●第84回 北日本学生馬術選手権大会

☆1回戦				得点率				
Cブロック	平芳 悠人	北海道大学(3)	北菓	56.136				
	柴田 航希	東北大学		51.666				
	福田 一平	酪農学園大学		50.908				
				得点率				
Dブロック	佐藤 敬近	北海道大学(2)	北創	54.696				
	影山 敦	帯広畜産大学		50.151				
	佐藤 敬佳	岩手大学		49.09				
☆準決勝				得点率				
Eブロック	佐藤 敬近	北海道大学(2)	コレディイノダ	55				
	大迫 敬史	北里大学		54.848				
	佐藤 燎	岩手大学		51.363				
	影山 敦	帯広畜産大学		49.09				
				得点率				
Fブロック	平芳 悠人	北海道大学(3)	ジョニーノデンゴン	57.575				
	柴田 航希	東北大学		53.181				
	富士原 光	帯広畜産大学		50.151				
	赤星 涉	福島大学		48.03				
☆決勝				得点率		減点	タイム	総得点
1位	平芳 悠人	北海道大学(3)	ハギノトリオンフォ	57.121	チエリーアドミラル	8	71.09	369
2位	佐藤 敬近	北海道大学(2)		55		9	61.66	354
3位	大迫 敬史	北里大学		55.606		16	74.64	351
4位	柴田 航希	東北大学		49.166		6	69.07	318.5

●第48回 北日本学生馬術女子選手権大会

☆1回戦				得点率				
Bブロック	西村 英里	北海道大学(4)	コレディイノダ	55.454				
	鈴木 裕美	福島大学		52.802				
	野中 穂	岩手大学		52.423				
	遠藤 李香	福島大学		52.348				
				得点率				
Dブロック	佐々木 遥菜	岩手大学	北鳳	53.938				
	和田 茜	北海道大学(3)		53.257				
	丸山 実穂菜	帯広畜産大学		51.818				
☆準決勝				得点率				
Fブロック	平野 優	酪農学園大学	ゼンノエルブルース	47.651				
	和田 茜	北海道大学(3)		47.424				
	鈴木 裕美	福島大学		46.893				
	西村 英里	北海道大学(4)		41.59				

※上位2名が決勝進出のため和田が決勝進出

☆決勝				得点率		減点	タイム	総得点
1位	和田 茜	北海道大学(3)	マチカネキララ	54.696	北終	4	72.03	357
2位	平野 優	酪農学園大学		52.878		5.5	63.65	343.5
3位	佐々木 遥菜	岩手大学		48.712		11	79.37	310.5
4位	新井 千尋	帯広畜産大学		46.666		4	72.81	304

●山下杯

☆LC				減点	タイム
1位	小山 寛	スラマティンガル	北海道大学(2)	0	53.84
4位	宇佐美 洋夢	駿宝	北海道大学(2)	0	58.59
5位	東谷 貴	スラマティンガル	北海道大学(2)	0	63.46
6位	山谷 亮介	スラマティンガル	北海道大学(2)	0	69

☆60cm				減点	タイム
1位	中津 裕太	駿宝	北海道大学(1)	0	68.2
2位	林 はるか	駿宝	北海道大学(1)	0	80.45

●北日本馬場馬術定期新人選

☆予選Aブロック			得点率	
	林 はるか	杜円舞	54.85%	
	塚本 祥太	インターハント	49.71%	
	中津 裕太	杜太郎	48.09%	林、中津は各馬賞

- 1位 北海道大学
2位 群馬大学
3位 岩手大学

☆決勝			得点率	
	中津 裕太	ジャルダンドウ・モネ	40.22%	
	塚本 祥太	ハリケーンジャズ	41.99%	
	林 はるか	杜円舞	46.40%	林、中津は各馬賞

- 1位 北里大学
2位 北海道大学
3位 福島大学

●第1回 ほくだいホースショー

☆第2課目				得点率
1位	唐嶋田 貴子	ヤスノインディアン	RCメインフィールズ	54.803
2位	太田 奈美	キティホーク	RCメインフィールズ	53.626
3位	東谷 貴	北兎	北海道大学(2)	53.136
5位	荒井 駿	北兎	北海道大学(2)	52.646

☆第3課目A				得点率
1位	田代 和行	ニホンピロファイブ	JRA函館競馬場	56.935
2位	佐藤敬近	北兎	北海道大学(2)	52.15

☆2スターA				得点率
1位	山川 晃平	北凜	北海道大学(4)	52.413

☆ジャンピング90				減点	タイム
1位	和田 茜	ニホンピロファイブ	JRA函館競馬場	0	63.5
2位	小山 寛	北菓	北海道大学(2)	2	70.56
3位	佐藤 敬近	ドラゴンアロー	マイホースパーク	4	77.1
4位	梶山 恭子	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	5	66.19

☆チャレンジジャンピング60				減点	タイム
1位	佐藤 美緒	ニホンピロファイブ	JRA函館競馬場	0	59.41
2位	道辰 麻生	トーセンスノーマン	JRA函館競馬場	0	59.78
3位	橋本 光	北菓	静内乗馬スポーツ少年団	0	60.94
7位	中津 裕太	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	4	61.25

☆クロスバー障害飛越競技				減点	タイム
1位	工藤 玲子	トーセンスノーマン	JRA函館競馬場	0	68.44
2位	竹川 宏樹	トーセンスノーマン	JRA函館競馬場	0	65.35
3位	田中 千尋	ニホンピロファイブ	JRA函館競馬場	0	64.22
OPEN	平芳 悠人	ルアス	北海道大学(3)	6	89.5

●OB戦

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
★80cm					
1位	荒井 駿	北菓	北海道大学(2)	0	68.15
2位	小山 寛	トウカイフラッグ	北海道大学(2)	0	70.25
3位	宇佐美 洋夢	北菓	北海道大学(2)	4	66.87
4位	東谷 貴	ビービーパンズ	北海道大学(2)	4	76.06
5位	松尾 慧	トウカイフラッグ	北海道大学(3)	4	90.59

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
★60cm					
1位	佐藤 詩織	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	0	78.06
2位	江口 遼太	コレデイノダ	北海道大学(4)	0	80.41
3位	中津 裕太	チェリーアドミラル	北海道大学(1)	4	76.6
4位	山谷 亮介	コレデイノダ	北海道大学(2)	4	99.56
3反E	梶山 恭子	コレデイノダ	北海道大学(2)		

●全日本学生馬術大会

★全日本学生賞典障害飛越競技				1走目減点	1走目タイム	2走目減点	2走目タイム	合計タイム	総減点
1位	谷脇 恭平	バーデンバーデン	関西大学	0	84.66	0	86	170.61	0
2位	荻原 理裕	ブライトタイム	立命館大学	0	82.67	4	79.14	161.81	4
3位	木崎 翔太	桜春	日本大学	0	83.34	4	83.38	166.72	4
21位	平芳 悠人	北創	北海道大学(3)	12	81.66	12	81.29	162.95	24
23位	富士原 光	柏桜	帯広畜産大学	4	78.66	20	86.69	165.35	24
48位	大迫 敬史	雪嵐	北里大学	30	98.36	24	84.57	182.93	54
49位	佐藤 燎	レーヴエトワール	岩手大学	28	80.77	28	84.51	165.28	56
51位	江口 遼太	北焔	北海道大学(4)	28	86.05	28	85.16	171.21	56
56位	福田 一平	テノリオ	酪農学園大学	40	79.86	44	81.75	161.61	84
2反E	奥原 秋津	柏海	帯広畜産大学	12	75.76				
2反E	柳田 睦仁	北稜	北海道大学(4)	28	80.29				
2反E	平野 優	駿麗	酪農学園大学	40	78.41				
2反E	新井 千尋	柏爵	帯広畜産大学	22	97.98				
2反E	影山 敦	柏嵐	帯広畜産大学			12	79.57		
2反E	小林 真梨子	雪勇	北里大学						

★全日本学生賞典総合馬術競技				調教減点	耐久減点	余力減点	総減点
1位	植田 俊輔	エンドーペロー	専修大学	52	0	2	54
2位	柿澤 小夜子	桜鶴	日本大学	51.2	0	4	55.2
3位	木崎 翔太	桜勝	日本大学	55.3	0	0	55.3
16位	平芳 悠人	北創	北海道大学(3)	79.8	4	4	87.8
22位	福田 一平	テノリオ	酪農学園大学	76.6	12.8	8	97.4
27位	佐藤 燎	レーヴエトワール	岩手大学	70.5	62.8	10	143.3
31位	舟田 亮太	マキシマムブレイズ	酪農学園大学	67.1	78.8	36	181.9
余力E	奥原 秋津	柏海	帯広畜産大学	70.2	73.6		
耐久E	山川 晃平	北凜	北海道大学(4)	64.6			
耐久E	中原 捷伍	エベレストクライマ	酪農学園大学	71.9			
耐久E	今野 紗保理	駿劉	酪農学園大学	74			
耐久E	平野 優	駿麗	酪農学園大学	77			

●第84回 全日本学生馬術選手権大会

★1回戦				得点率
Gブロック	増井 一斗	中央大学	東小町	58.711
	平芳 悠人	北海道大学(3)		55.378
	富士原 光	帯広畜産大学		51.969
	帖佐 幸樹	広島大学		48.863

Hブロック				得点率
	近藤 祥太	専修大学	白眉山	57.196
	加山 裕章	関西大学		56.741
	佐藤 敬近	北海道大学(2)		55.605
	青島 由樹	名古屋大学		52.12

※上位2名が2回戦進出のため予選敗退

★2回戦				得点率
Kブロック	高榊 優也	日本大学	サリー	60.984
	照井 駿介	早稲田大学		58.408
	下谷田 駿	立命館大学		57.424
	平芳 悠人	北海道大学(3)		56.893

※上位2名が準決勝進出のため予選敗退

●第48回 全日本学生馬術女子選手権大会

☆1回戦				得点率
Bブロック	宇賀神 沙夜	立命館大学	カティーサーク	59.696
	和田 茜	北海道大学(3)		57.196
	神林 夏美	日本大学		56.514
	平野 優	酪農学園大学		54.09

☆2回戦				得点率
Kブロック	吉田 なな美	福井工業大学	矛桜	59.166
	キャンベル アリサ	名古屋学院大学		57.196
	多井 千織	学習院大学		56.514
	和田 茜	北海道大学(3)		53.181

※上位2名が準決勝進出のため予選敗退

●第34回 国立大学対抗馬術大会

☆予選リーグBブロック			減点	タイム
	小山 寛(2)	ハッピーレイクス	94	3反E
	山谷 亮介(2)	スリーアイアン	10	82.37

1位	千葉大学
2位	北海道大学
3位	宇都宮大学

☆決勝リーグ			減点	タイム
	小山 寛(2)	ミルククラッシュ	12	54.92
	山谷 亮介(2)	ノアパンチ	6	67.67

1位	静岡大学
2位	福島大学
3位	山梨大学
4位	北海道大学

●水口オータムカップ

☆小障害C				減点	タイム
5位	荒井 駿	北菓	北海道大学(2)	0	50.66
7位	平芳 悠人	ビービーバンス	北海道大学(3)	0	52.82
15位	小山 寛	北菓	北海道大学(2)	8	49.73
16位	東谷 貴	ビービーバンス	北海道大学(2)	8	53.63

☆小障害B				減点	タイム
7位	東谷 貴	ビービーバンス	北海道大学(2)	4	59.85
11位	小山 寛	北菓	北海道大学(2)	4	64.09
16位	平芳 悠人	ビービーバンス	北海道大学(3)	8	62.44
落馬E	荒井 駿	北菓	北海道大学(2)		

●ひょうごスプリングホースショー

☆L1課目				得点率
6位	平芳 悠人	北創	北海道大学(3)	56.26%

☆L2課目				得点率
3位	平芳 悠人	北創	北海道大学(3)	55.46%

調教報告

◆北創（サクラスペリオール）◆



セン サラ 黒鹿毛
平成13年4月9日生
北海道静内郡静内町産
父 サクラローレル
母 サクラヒーロー
平成18年6月24日入厩

平 芳 悠 人

私が北創を担当させていただいて、今年で二年になります。
今年は大きく分けて二つの目標を持って、担当させていただきました。

- ①全日本で勝負できる馬にする。
- ②他の子に引き継ぐことができるようにする。

①について

まず北日に関してですが、ほとんど問題ありません。もちろん油断はできませんが、必ず成績を残すことができる状態になったと思っております。

全日に関して

障害

落下がかさんでしまうため、現段階では入賞はできても上位に行けるレベルではない。馬のレベルは騎乗者がもっと上手であれば上位にいける所まで来ているとは思っているし、騎乗技術の向上は日々求めていくべきことだが、北大の状況から考えてそれを継続していくことは不可能に近いであろう。また、まだ少し気難しい面が時々現れるので、それを乗りこなせるようになる必要はあるだろう。

総合

野外はほぼ問題ないと思われる。物見はするが、「スイッチ」が入っていれば全く気にする必要は無い。タイムインも十分可能である。もちろんそのやる気スイッチを

いつでも押せる状態にしておく必要はあるが、、、。耐久審査を確実にこなすと言う前提で、ポイントとなってくるのは馬場とインスペクションである。馬場はどうしてもテンションが上がり、どこかで「爆発」してしまう。日々馬との意思疎通を図り、「逆やる気スイッチ」をテンションがあがったときにも押せるようにしておく必要がある。そのヒントのようなものは得られたので、来年にはもう少しこの「爆発」はマシになると思う。そしてインスペクションであるが、これがもっとも不安である。もともと肢が弱いうえに、ハードワークを強いられるため、しっかりと馬を観察し、少しの異常も見逃さないようにしておく必要がある。

②について

結果から言うと、この段階に到達することはできなかった。

私は普段から「馬の気持ちを考え、分かりやすく、シンプルに」トレーニングをするように心がけている。そして馬が自ら考えるようなトレーニングをするようにもしている。人間が馬を助けなくても、馬は競技で結果を残すことが求められているからである。

こういったやり方の効果もあってか、北創は着実に成長しているが、まだ所々に気難しいところが残っている。これがなかなか厄介ではあるが、馬との約束事をしっかりと確認していくことで、今後改善していくことができると考えている。

今後も北創が北大にとって長年エースとして活躍できるよう、調教を進めていきたい。

最後に

この一年間支えていただいた関係者の方々に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。そのおかげで人馬ともに大きく成長できたと思っております。今後ともご支援ご指導のほどよろしく願いいたします。

◆北焔（ファイアマリオ）◆



セン サラ 黒鹿毛
平成6年3月25日生
北海道白老群白老町産
父 トウショウマリオ
母 アンバーエルン
平成21年10月31日入厩

江口 遼太

昨年に引き続き北焔（マリオ）に乗せていただき、全日まで出場できたことに関して、まずは自分を全日に連れて行ってくれたマリオとマリオに乗せてくれたほかの部員に感謝します。前述したように自分はマリオに全日に連れて行ってもらったというだけで調教のようなことはできませんでしたが、一年間マリオの状態を維持するためにしたことをまとめたいと思います。

全日学の終了後はしばらく休ませ、冬場は筋力と体力を落とさないために毎日30分ほど常歩運動のみを行いました。そのおかげか春先はかなり肢の状態もよく、自分が乗って速歩や駈歩で運動でき、出来るだけゆっくりしたペースで馬をまるめて体をほぐせるように運動しました。大会には春自馬でMDに使い、高さも低いためある程度ゆったりしたペースで経路をまわることが出来ました。この試合後はやはり肢に負担がかかったこと、また蹄叉腐乱の影響などから跛行が続いたためケアをしながら調整して北日に臨みました。北日ではフレンドリーで馬の肢を心配するあまりしっかりと動かせず、ダブルや水濠で拒止してしまいました。二回走行では、一走目はその失敗の不安から自分が必要以上に馬を走らせてしまって落下が多くなり、二走目はその疲労から馬がなかなか前に出せずに最後の一拒止するという結果になりなんとか権利を取っただけというものでした。全日でも同じような結果で、フレンドリーで拒止したため一走目で走らせてしまい落下が多くなるという悪循環に陥ってしまったように思います。

二年目でマリオの能力を発揮させられなかったことは本当に申し訳なく、やはり振り返ると自分の経験不足を実感します。マリオにとって最適な経路走行のペースをつかむことが出来なかったこと、一度体勢が崩れると人がなかなかそれを立て直せないことが原因でマリオには大分無理をさせてしまいました。マリオに乗るためには、その少ない経路走行の機会に集中して臨み馬のいいリズムをつかむこと、多少崩れても落ち着いて立て直せるように経験を積むことが重要であると思います。これからの部員たちがマリオから少しでも多くのことを学び、全日に出場するだけでなくそこで結果を残してくれることを期待します。

◆北凜（ネイチャーヒーラー）◆



セン サラ 栗毛
平成10年4月11日生
アメリカ産
父 Valiant Nature
母 Mintullah
平成18年9月18日入厩

山 川 晃 平

前シーズン、北日本学生では二回走行はなんとか完走でき権利を獲得しましたが、目標としていた総合馬術では耐久審査で失権、全日本学生でも二回走行とも完走できず失権。経験という意味では多いに得られる所がありましたが、チームの成績に貢献することもできず、とても悔しい思いをしました。今までの自分なら、そこで練習としてどんどん障害に取り組みたい、もっと高い障害を、もっとたくさんのバリエーションの野外障害を、という気持ちになっていたと思います。しかし、色々な方にアドバイスをもらい、そのシーズンを振り返って反省する中で、北凜号はすでにそういった障害飛越の練習を繰り返すべき調教段階ではなくなっている（細かい部分ではまだまだやらなければいけないことはたくさんあるのですが）と感じました。それよりも今まで避けてきたような、これまではだましましやってきたとも言える、根本的な部分を改善しなければ、北凜号はこれ以上の結果を期待できない、そう思いました。それがハミ受けです。北凜号は屈頭姿勢はとるものの、そこから脚を使い推進をかけるとハミをとっていきののではなく逆に巻き込んでしまう、そんな状態にありました。このままこの巻き込みを直すことなく、野外の馴致や今までのトレーニングを続けても120cmやノーザンの野外コースなら完走させる自信はありました。しかし、実際に見た三木ホースパークや東京馬事公苑の野外コースを完走するためにはこの根本の解決は避けて通れない、そして何より、これから北凜号に乗る後輩達にそんな課題を残して引き継ぎたくない、その気持ちがとても強くありました。そのため、全日が終わった後の練習はひたすらそのことに費やしました。ハミは一度も受けさせず、本当に繊細に大事に手綱を握り、脚を使えば前にでることを、そしてその中で人と馬のバランスを合わせるように輪乗りの開閉や移行を中心に、あとは体をほぐすことも目的に肩内、腰内、斜め横歩も取り入れていましたが、拳と脚の関係についての地道な練習をひたすら続けました。そうやってコンタクトと脚反応について二、三か月かけましたが、結局完全には修正することができませんでした。しかし、少し手がきつくなるとすぐ巻き込んでしまいはするのですが、その巻き込む瞬間に脚を使ってやれば、

ちゃんとハミに出てくれるという状態には持っていくことができました。そしてその練習を繰り返したおかげで、自分自身が馬の口について、手綱の感覚について、とても鋭敏になり、クリニック等で言われてきた“拳と脚の間に馬をおく”という感覚が少しわかるようになりました。そして春休みには本州につれていき、障害の練習を始め、三月の終わりにはMDクラスに出場しました。前シーズンの経路走行では勢いで飛越していたようなところがあり、人は乗っかっているだけで馬まかせにまわっていました。しかしこの試合の頃にはバランスをバックさせ、起きた状態での駆歩でまわるということが徐々にできてきました。しかし、四月に札幌に帰ってきてから、跛行があらわれました。獣医師にも診察してもらい、腰部と臀部に筋肉の張りがあることが原因だとわかりました。もともと北凜号は腰が弱い部分があったので、腰には注意しながら乗ってきたつもりだったのですが、三月という毎年のリズムの中では休養中である時期から本格的に練習を始めてしまい、しかもいきなりMクラスに出場し、かなり身体に負担をかけてしまったのかもしれない。それからシーズンが始まった五月六月とほとんど練習はせず、ひたすら曳き馬、並歩、そして筋肉の張りをとるために温浴、マッサージを長時間かけて行うという日々を続けました。そしてやっとそれらの不安がとれてきた頃に、次は放牧中にラチのすきまに前肢を突っ込んでしまうという事故が起こり、さらに一月の休養を余儀なくされました。そのため、ほとんど調整など行えず、野外馴致も一度も行うことなく北日学をむかえることとなりました。それでもなんとか総合馬術で完走し権利も獲得することができました。正直、この権利獲得は、馬術的に自分と北凜号が成長したため、という感覚はあまりありません。耐久審査は本当に気合いで完走したようなものです。しかし、それも冬の地道なコンタクトの練習と、なによりシーズン中のケガの看病、毎日の曳き馬、手入れといった乗る以外の部分の中で作り上げてきた関係性があったからこそだと感じています。前年度の部報にも山川兄の言葉をおかりし、書かせていただきましたが、今回のような調整しきれない部分であったり、根本的に足りていない技術を、そういった馬との絆や関係性といったもので補える、そのことを今回の権利獲得で少し証明できたのではないかと思います。他のスポーツと違い、馬術は競技自体の練習をしている時間、つまり乗っている時間がとても短いです。納得のいくまで練習をするということがなかなかできません。よく言われることですが、馬術は馬に乗っていないときにこそ成長できる。それは他の人が乗っているのを見て学ぶ、自分のビデオを見て反省する、本やビデオで勉強する、そういった色々なことを指していると思います。僕はその中でも、普段の手入れなど、乗るとき以外の馬と触れるときに学べることの多さ、その大切さというものを強調したいです。大学から馬術を始めて全日学で戦っていくには、馬術の腕を磨くだけでなく、パートナーとなる馬と心を通わせる努力がとても大切だと思います。

話がそれてしまいましたが、調教報告なので、北凜号の今後の課題について、まとめておきます。前述にもあるように、ハミ受け、コンタクトはこれからも付きまとうであろう大きな課題です。少しでも手がきつくなるとまだ巻き込んでしまうし、その

空バミの状態で乗り続けてしまうと、脚を使っても動いてこない、ただスピードが速くなるだけ、そんな状態に陥ってしまいます。普段のFWでは頭の位置ではなく、常にハミに重みを感じられることを気にしながら乗るべきです。下方移行の際も手に頼らないように気を付けた方がいいです。すぐ頭を突き上げてしまいます。また、障害を飛ぶうえでも同様に手でひっぱりこんでしまうと全く首を使って飛越してくれません。随伴姿勢の中でも特に手を前に出すことを意識した方がいいです。障害飛越について言えば、右によれながら飛ぶ部分があります。コンビネーションで右にバーを立てかけてまっすぐ真ん中を飛ぶ練習をするといいと思います。連続障害に苦手意識があり、経路ではトリプルや、大き目のオクサーに臆することが多いです。オクサーにむかうときに恐れからか遠くから踏み込んでしまうクセも見られます。障害練習として、オクサー垂直オクサーのトリプルで、オクサーを根本から飛ぶことを教えるために二つ目の間の距離を少し狭目に設定して組んだコンビネーションは効果的だと思います。野外障害では、まだ飛び降りるものや穴について恐がっている部分があります。カフィンなど、全日を見据えて馴致をしていけるとよいと思います。また、普段の駆歩から腰内気味であったり、深い左内方姿勢がとりづらいつらいつらといったことも見られます。とてもバランスに敏感な馬なので、しっかり今馬がどのような姿勢でいるのかを意識しながら乗るべきだと思います。経路走行の中で一番重要なのは、北凜号を気持ちよく走らせることです。逆に言えばそれさえできていれば例え斜めに向ってしまったり、踏切を大きく外してしまったりしても大抵の障害はクリアしてくれます。僕自身は軽めのシートで、少しスピード感のある駆歩を心掛けていましたが、北凜号が気持ちよく走れるならどんな乗り方でも構わないと思います。そして経路の中でそういう風にもっていくのではなく、入場の仕方から、練習障害の飛び方から、下乗りの段階から、当日の朝から、というようにどんどん逆算して考えてあげてください。普段の北大の厩舎の中から考えられるようになったら、結果にも表れてくるのではないのでしょうか。

僕が担当させてもらったこの2シーズンが、北凜号の新馬から競技馬への転換期でした。しかしこうして卒部した今も自分が北凜号を成長させたという感覚はあまりありません。これまで乗ってこられた先輩方が積み重ねてきたことが大きく、また北凜号自身も試合に慣れてきたという感じだと思います。これからは北凜号が全日の常連になることを期待してやみません。

最後になりますが、この2シーズンをかけて、本当にたくさんの方にお世話になりました。お一人ずつお名前をあげて感謝したいところですが、あまりに長くなるのでこの場では控えさせていただきます。北凜号を育ててくださった歴代のチーフ山川兄、野村兄、瀧澤兄には特に心から感謝しています。そしてネイチャー、この部活動で全力を出し切れたのは、ネイチャーのおかげでした。ネイチャーのことが好きで好きで仕方なく、どうやったらもっと上手くこの大好きなネイチャーに乗れるんだろうと一生懸命考えました。頭の中がネイチャー一色だったこの二年は本当に一生の宝です。最高のパートナーでした。ありがとう！

◆北柁（サクラロイヤル）◆



セン サラ 栗毛
平成13年4月9日生
北海道静内郡静内町産
父 サクラローレル
母 サクラユスラウメ
平成18年6月24日入厩

柳 田 睦 仁

2年続けて乗せてもらって、成績を落としたものが偉そうに書けることはないので短めに。

やったことは2スターAにある運動をFwで毎日行い精度を上げること。
昨年と引き続き曳き馬や騎乗時でのモノ馴致バスキュール向上のためのコンビネーションである。

だいぶ馬体もほぐれてきて勝負になるかなといった実感が少し出てきた。コンビネーションは長田さんから教えていただいたものだけやった。飛び自体もよくなっていき落下も気持ち少なくなったと思う。馬場は昨年の全日学での38.75%から北日学では54.25%へと上がった。この調子でいけばコンスタントに50%後半が出るようになると思う。まだまだできるようになると思う。

久しぶりの試みとして全日本障害へチャレンジした。これは先輩が国体に使おうと考えていたことをヒントに村上恵佑さんに相談したら全日本障害partⅡがいいと勧められたこともあって、北創と遠征した。

その輸送で両後ろの飛節をざっくり切っけてしまい、パンパンに肢がはれたまま秋のシーズンを過ごすことになった。しっかりとした輸送肢巻をつけるべきだったとかなり後悔した。安全への怠りと、変な外部への依存意識があったのかもしれない。その状態で出た全日本はフレンドシップで物見して止まったものの障害への前向きさは変わらず、ほっとしたことは覚えている。

全日学でもトラブルは起きた。輸送後厩舎で休ませておいて、夕方見に来たらハ行しており獣医さんに診断していただいた。輸送中の馬運車か厩舎でのねん挫と言われ、結局フレンドシップは出れず、競技に臨むことになった。

2年間やらせていただいたが、馬体はよくなったと思う。しかし度重なる輸送中のトラブルによって大会への悪いイメージがついてしまったことも確かである。

本当は福島のトラブルがあったことから想像して事前にやらなければならなかったが、三木への遠征のときは何も起こらなかったので対策を行わなかった。ロイヤルは縦積みの方がいいのではないかとも思うがなかなか予算に限界のある馬術部では難しいだろう。一緒に遠征した山谷、新谷や後輩たちはこのことを忘れず、同じようなことが起こらないようにしてほしい。

あと少しだけ。我々の目標は全日学だが、入賞ラインを授業中よく計算していたので書かせてもらう。

障害は二回走行合わせて減点60、個人は減点20くらい。

総合は3人馬完走できれば入賞にかなり近くなるだろう、個人では減点80くらい。したがって障害の団体はそれぞれ一回走行では平均して減点8～12が望まれる。総合では3人馬完走と書いたが、最近では中央の強豪私立でも難しくなっているが、北日本の過去を振り返ると畜大が当然のようにやっていたし、北大でも10年ほど前に8位という成績が残っている。かなりの参考になるはずだ。

チームの一員としてやらせていただいたが、目標への統一意識、選手の熱い情熱と冷静な判断力、そしてサポートする人の強力なバックアップ。これを基に団体入賞、優勝へと北大馬術部を導いてほしい。

最後に2年間乗せていただいた感触としてはまだまだよくなるし、馬の精神が幼いのでハードルは多いかもしれないが一つ一つ乗り越えてぜひ北創と肩を並べて全日学で活躍してほしいと思う。彼は出来ると思うし、これからはサポートしていきたいと思う。

指導してくれた方々、一緒に遠征に行った選手・馬つき、そして北大に残ってくれた人含めチームとしてやれてとても感謝しています。

そしてありがとうロイヤル。

北菓（ログキャビン）◆



セン サラ 栗毛
平成8年3月8日生
アメリカ産
父 Woodman
母 Great Christine
平成21年9月15日入厩

江口 遼 太

昨年に引き続き北菓（ログ）に乗せていただくこととなり、今年も一年間下級生の練習に使いつつ総合で全日本の権利をとることを目標にやってきました。この一年を振り返ると、怪我など肢の故障で十分な練習ができない時期が長く続き、その結果人も馬も準備不足で北日に臨まなければならなくなってしまうことが非常に悔やまれます。

昨年の北日が終わって代が替わってから春先までは主に下級生を乗せて練習していましたが、冬場から春先にかけて跛行が見られることが多くなり、しばらく休ませては少し運動するという繰り返しでした。この跛行の原因としては足場の悪い中で練習中に肢をひねったのではないかなどと考えましたが、なかなか良くならなかったためOBの川崎獣医師にも診ていただきました。その時には原因の一部は蹄から細菌が感染する砂のほりであることが分かり、それは完治しているため大丈夫だろうと言っていたきましたが、その後も蹄叉腐乱での跛行などがあり完全に跛行がなくなって練習できるようになったのはシーズンの中盤になってからでした。

跛行がなくなってからもできるだけ肢に負担をかけすぎないように注意をしつつ練習を行いました。具体的には、Fwでは常歩での二蹄跡運動や肩内・腰内を多く取り入れて馬体をほぐすようにし、速歩でも同じように横運動を多く行ったり頭を下げてリラックスした運動ができるように心がけました。障害は、基本的には馬に自信を持たせるために低い障害を最低限行い、コンビネーションでやや高い障害を少しだけ行うという程度で、馬の障害に向かう気持ちを保つような練習に終始しました。

ノーザンの大会ではLBから始めてLAまでしか使わず、これも馬が障害に対して自信を持って飛べるようにすることを第一に考えました。反抗がありながらもLAの経路はまわられていましたが、十分に馬の体勢を戻せずに走って経路を回ってしまっていたため、LAでもあまり余裕がない状態でした。

そんな中でむかえた北日では、フレンドリーは100cmクラスで特にどの障害も問題なく飛越することができ、シーズンの中では状態は上がってきていたと思います。調教審査では準備運動で長く動かすすぎてしまったため馬のテンションが上がり多少経路中にバタついてしまうこともありました。それでも本来の馬の動きが良かったため55%の得点率で上位に入ることが出来ました。耐久審査では、やはりかなり走って戻すのが難しい状態でしたが、去年の経験もあり前半の障害は特に不安もなくスムーズに通過してくれました。しかし、折り返し直後の灌豪で三反抗し、失権する結果となりました。灌豪に関しては元々馬が苦手としていたことや昨年と通過方向が反対になったことは分かっていたのですが、肢の状態の不安や去年の経験から馴致を怠ってしまったために起きた反抗であり、馴致の重要性を痛感しています。また、練習不足でいざという時に馬を障害に向かわせられるだけの関係性ができていなかったことも原因であると思います。

シーズンを通して感じたことは、ログ自身丈夫な馬だと言われてきましたが16歳ともうあまり若くもなく、これまでの疲労の蓄積もあるのか肢に不安が出るようになってきているので、これからは十分に注意してケアして行ってほしいと思います。また、そのような中でも練習で馬との関係性をしっかりと作り、基本ではありますがいつでも馬を戻したり押したりすることが出来る状態にしておくことが特に重要だと感じました。さらに、今後も総合での権利獲得を目指すのであれば野外の馴致は十分に行っていく必要があると思います。

調教報告というよりも反省文のようになってしまいましたが、ログはケアを怠らずしっかり練習できれば練習馬としても競技馬としてもまだまだ活躍してくれると思うので、今後の現役部員たちがログの能力を最大限に生かしてくれることを願います。

◆北藍（ビービーバンス）◆



牝 サラ 黒鹿毛
平成18年4月23日生
北海道日高郡新ひだか町産
父 エイシンサンディ
母 エイシンデンバー
平成24年9月26日入厩

平 芳 悠 人

バンスは前進氣勢が旺盛で、障害に対しても積極的であり、総合ならいける可能性があると感じました。既に110程度の試合には出場していたのですが、部員がコントロールするのは少し難しかったので、そこを改善する必要がありました。低い障害でコースを作り、準備運動を行った後そのコースをできるだけ馬が落ち着いて回れるように繰り返し練習する。勝手に走れないように小さい回転を多く入れながらできるだけゆっくりな駆歩をするよう心がけて運動しました。少し時間はかかりましたが、最終的には下級生でも乗れるようにはなりました。また、飛越時に少し背中を張った状態になってしまうところがあり、折り返しをつけたまま障害練習を行っていました。これによりバスキュールはだいぶ改善されたように思います。

バンスの一番厄介なところは扱いが難しいところです。蹴ったり噛んだり、馬房に入りたがらなかつたりetcと、いろいろと悩まされました。これらは少しはマシになったものの、改善には至らず根気よくやっていくしかなさそうです。

バンスに今年一番悩まされたのは怪我が多かったことです。すぐにフレグモーネに発展してしまい、その度に練習ができないようになっていました。そのため調教もなかなか進めることができませんでした。馬体のケア方法に工夫をしていく必要があります。

バンスには問題点もまだいくつか残ってはいますが、それもまた勉強になりますし、根気強く、馬としっかり向き合ってやっていってほしいです。

◆北兎（フォルツァ）◆



セン サラ 鹿毛
平成16年5月24日生
静内町親和牧場産
父 カリズマティック
母 サクラキャンドル
平成19年11月9日

平 芳 悠 人

フォルツァは長年競技馬として期待され、なんとかものにしようと先輩方が頑張ってくれましたが、なかなかその成果は現れませんでした。この馬の性格が壁となっていたのだと思います。

今年は無理するのはやめて、練習馬として頑張ってもらうことにしました。練習では、特に要求をきつくしない限り、問題なく運動してくれるので部班等にのみ使っていました。歩様もいいので少し乗れるようになった子の馬場の練習にもいいと思いますが、これもあくまでも要求がきつくない範囲におさめる必要がありました。

障害に関しては、やはりオクサーが怖いようで、この恐怖をフォルツァから取り払うのは難しかったです。馬の潜在能力は魅力的なのですが、やはりここまでになってしまうと、北大の競技馬としては厳しいように感じました。

これらのことから、北大では練習馬として使っていくのがいいと思います。

◆チェリーアドミラル◆



セン サラ 芦毛
1993年4月22日生
様似郡様似町川辺牧場産
父 サクラユタカオー
母 チェリーユミコ
平成22年8月1日入厩

宮田昇太

本年度も昨年に引き続き、チェリーのチーフをさせて頂きました。今シーズンの目標としましては、下級生の練習馬として鞍数を確保し、試合で経路を安定して回ってこれる状態を維持することにしました。

9月には夏バテの影響で疲れが見られ、馬体が痩せているようでしたので1ヶ月ほどマオイホースパークに連れていき放牧させました。10月初旬に北大に戻ると、OB戦に向けて調整を行いました。OB戦後は昨年に引き続き貫名さんにご指導していただく中でチェリーの状態を維持しました。昨年の課題であった騎座の安定やハミ受けの練習を継続して行い、FWの質を向上させました。下級生の練習は部班を中心に行い、号令を行う人を適度に変えることで、いろいろな人の指導を受ける体制で練習を行いました。また単発やコンビネーション、ラインなどの障害飛越練習も積極的に行いました。

冬が明けてシーズンに入ると、下級生をLA、LBなど今まで出場したクラスよりも上のレベルに挑戦させました。半澤杯や新緑、市民大会、道大会、北日では個人レベルに合わせ2馬配以上を組みました。試合では下級生が安定して経路を回ってくることができたので良かったです。また障害落下による減点や反抗などもあり、ライン取りや回転など誘導のどの部分に問題があったのか、反抗されたときに落ち着いて対処できたかなど、経路周りの難しさを下級生自身が直接感じ、考える機会も多く見られ、次の走行に繋がる経験を多く積ませることができて良かったと思います。

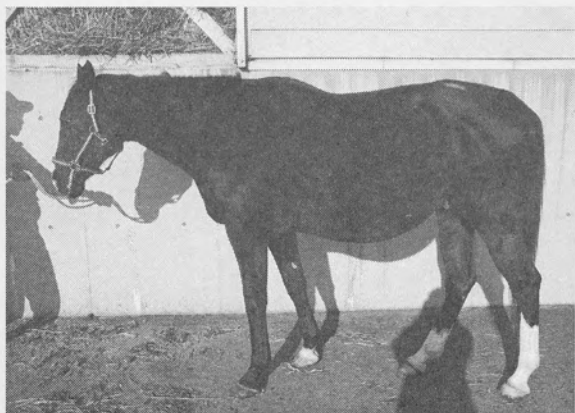
私は北大馬術部員としての4年間の活動を終え、8月に引退しました。その中でも、チェリーと関わった時間が一番長く濃いものであったと思います。約1年半の間ありがとうございました。お疲れ様でした。

最後に同期及び後輩の皆さんに深く感謝申し上げます。同期とは部の方針などでぶつかることも多々ありました。こんなことで最上級生として馬術部をまとめていける

のか不安な部分もありましたが、このメンバーと一緒に部活を続けることができ良かったと思います。本当にありがとうございました。また就職活動や大学の研究が忙しかったこともあり、当番や練習に出られないことも多々ありました。そんな中後輩たちの支えがあったからこそ、部を続けることができたと思います。本当にありがとうございました。並びにOBの方々や貫名さん、百瀬ライディングファーム、マオイホースパークの方々、静内の方々など馬術部を運営するにあたってお世話になった方々にこの場を借りて感謝の意を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。今後は北大馬術部のOBの一人として、影ながら北大馬術部を支えていければと思っています。今後の北大馬術部の躍進を期待しています。

入 厩 報 告

◆北魁（トウカイフラッグ）◆

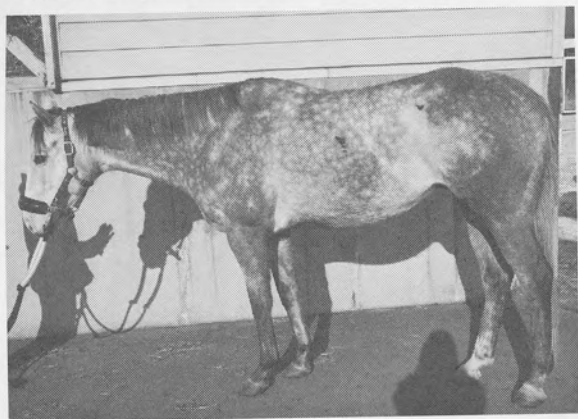


セン サラ 黒鹿毛
平成14年4月16日生
新冠町長浜牧場
父 ブライアンズタイム
母 トウカイティアラ
平成24年10月7日入厩

小 山 寛

トウカイフラッグ号は2012年10月7日に函館競馬場より入厩しました。臆病な所もありますが、障害飛越に関しては良い物を持っていると思われます。

◆北騮号（アップヒルティガー）◆



セン サラ 芦毛
平成20年3月10日生
米国/R&R King Stable産
父 Unbridled' s Song
母 King Shooting Star
平成24年9月15日入厩

平 芳 悠 人

北騮号はメインフィールド様からいただきました。当初は練習馬にいいのではないか、ということでした。しかし、少しやってみると非常に高い能力を秘めていると感じました。性格はとても素直で、障害に対しても前向きであり、将来を期待できる馬だと思っております。

離 厩 報 告

◆北煌号（ウインジーニース）◆



セン サラ 鹿毛
平成12年4月19日生
千歳市社台ファーム産
父 バブルガムフエロー
母 サクラギャル
平成16年10月24日入厩
平成24年7月8日離厩

西 村 英 里

ジーニースは平成16年に入厩してから7年9カ月間北大で頑張ってくれました。乗馬としては13歳とまだまだ活躍できる年齢で北大を離れることになってしまい、これまで乗ってこられた先輩方に申し訳なく、また自分の実力の無さを痛感しています。

私がジーニースのチーフをしていた時、まずは乗り手がうまく座れるようにならないと調教もできないという焦りが強く、まっすぐバランス良く座るという基本を徹底的に体に覚えさせようとしてしました。その結果、馬の腰へ負荷がかかって慢性的なハ行につながったのかもしれませんが。ジーニースは半澤杯前に歩様が悪くなってしまったので、しばらく休ませることにしました。しかし、馬体の回復は本来使う予定だった北大での北日選手権に間に合いませんでした。ちょうどその時期、新馬を入れるために北大から馬を出さなければならなかったこともあり、ジーニースを離厩させることになりました。7月8日の北日選手権後に離厩式を行い、ジーニースはそのまま松下牧場へ行きました。

ジーニース、私は君に毎日乗れて幸せでした。ありがとう。

◆北椎号（シーベスト）◆



セン サラ 黒鹿毛
平成7年6月5日生
浦河町浦河日成牧場産
父 タマモクロス
母 シークイン
平成15年8月25日入厩
平成24年8月14日離厩

加 藤 亜也奈

北椎号は、蹄の状態の悪化のため、平成24年8月14日（火）に静内の橋本牧場に離厩しました。

蹄の状態があまり良くないにも関わらず、今年は毎日の練習に加え、下級生を乗せて試合に出場するなど、練習馬として活躍してくれました。

秋が終わり、馬場が凍るころ疲労骨折が発覚し、2か月間休馬させていました。歩様がよりガタガタしており、速歩ができない状態であやしく思っていた時、たまたま札幌にいらしていた静内の井上獣医に診ていただいたところ、蹄骨の疲労骨折と診断されました。蹄がねていたこと、また、蟻洞により柔らかくなっていたことで蹄の中の骨に運動の衝撃が伝わり、骨折を生じてしまいました。そのとき、自分自身の馬体についての知識のなさに対してすごく情けなく思いました。もうすこし早く気づいていれば、避けられていたのかもしれませんが。そんななかシーズンを迎えられるか不安でしたが、冬合宿後には治り、無事に乗り越えることができました。馬にとって蹄は運動に欠かせないものです。このシーズンは、蹄のトラブルが他の馬にも出ていることが多かったような気がします。このようなことを避けるために、馬体管理や馬房の掃除をしっかりとって予防するように気を付けてください。

シーベストの様子を見に来て下さった多くの皆様方、本当にありがとうございました。未熟な自分にたくさんのアドバイスをしてくださり、無事北大でのラストランを完走することができました。

最後に、シーベストから初めての駆歩、障害、また初めてのノーザンの試合で出場し、多くのことを教えていただきました。私の乗り方が不十分にも関わらず、練習、試合と日々がんばってくれたシーベストに深く感謝しています。これからもノーザンの試合でがんばってね。また、会いに行きます。

◆北鳳号（ヤスノインディアン）◆



セン サラ 鹿毛
平成8年4月29日生
三石町元道牧場産
父 ダイヤモンドショール
母 ヒカリハード
平成13年12月2日入厩
平成24年9月1日離厩

柳 田 陸 仁

北鳳（ヤスノインディアン）は平成24年9月4日に石狩にある乗馬クラブメインフィールドへ離厩しました。理由は慢性的な腰・肩からくる跛行です。離厩先はメインフィールドの小野さんが離厩する際は引き取ると以前から言ってくださっていたのですんなり決まった次第です。

ヤスは練習馬でもし競技馬に支障がある場合は競技に使うという位置づけで、自分が担当させていただいた。競技成績としては北日学総合（山川）が調教審査2位・耐久審査9番で失権、下級生が障害の試合（LB以下）でのべ6人出て全員完走、貸与馬として北水対抗戦と北日学選手権に使った。こうして振り返ると障害の練習馬としてはよかったが、競技馬としては難しかったと言えるのかもしれないが自分としては北日学に対してかなり自信があったのでショックだった。ヤスが離厩した今、懺悔のような形になるが一年間の様子を調教報告としてここに書かせていただく。

まず本題に入る前に北大馬術部にとって望ましい練習馬とはどういうものなのか所見を。

- ・年間通して下級生を乗せ続けることが出来ること。
- ・小障害ならば安定して完走できること。

であろう。当たり前のことを書いているだけだがこれを満足に行えた馬は最近ではチェリーくらいだろうか。難しい。ただある程度のレベルの練習馬をそろえなければ下級生の練習が満足にいかず、成績の低下ということが容易に考えられるだろう。今の馬術部の現状である。安定して練習馬をそろえていくためには北大の中で新馬→競技馬→練習馬という流れを作りつつ、不足している分は競技馬になれない新馬と外部からの加入といった形を安定して長いスパンで作っていくことが大切であろう。

- ・少し横道にそれたが、上記目標を念頭に置いてヤスに乗っていきにあたって
- ・鞍数は多少抑えながら年間通じて小障害に使っていく。
- ・徐々に下級生の野外の練習に使う。

上手くいったら下級生で北日学総合に使えるかもしれないと考えていたことも事実である。

日々のトレーニングはいきなり乗り運動をすると負担がかかると考えたので30分程度の馬場放牧や長めの曳馬と調馬索をかけてから鞍をつけるようにした。下級生をすぐ乗せることはせず、調馬索運動や低伸運動（頭頸の伸展によるトップラインの柔軟と透過性）と軽速歩での調教審査程度の横運動を行いほぐれたのを確認してから乗り替わるようにした。特に駢歩でハミにかかっていく傾向があるので少しでもバランスが崩れたら、速歩で立て直してから駢歩運動をするようにした。このような移行を繰り返すことで馬が人に集中するようになり、問題だった舌越しもなくなっていった。障害は筋トレを主な目的としてバウンスと低障害をゆっくりサポートなしで飛越するようにした。

下級生の練習はバランスがある程度自分でとれる人はハミ受けや横運動の練習を、まだバランスが危うい人は調馬索や輪乗り運動の中で2ポイントで鐙に体重を乗せる練習を主に行った。部班も多少やったがやはりある程度乗れるようになるまではそこまで効果的ではなく、個別で行ったほうが良いとこの一年の下級生の練習を見て感じた。ある程度バランスがとれるようになったら鐙上げで馬のコントロールを目的とした部班が効果的だと思う。障害の練習はキャバレッティとコンビネーション（100cm程度）で人はバランスをとりつつ随伴を出来るように行った。コンビネーションは広田竜馬さんの障害トレーニングを参考にして主に以下の図の距離で設定した。これは飛びやすい距離に設定してあるので下級生を安心して飛ばすことが出来た。時に最後のオクサーの後に適当な距離でラインを設定して、より実践的な練習を行った。



ただ今年は下級生の数に対して障害の試合に使える馬が怪我でほとんどいなかったため、当初の予定よりシーズンに入ってヤスの負担が増えてしまった。下級生を満足

して練習させるか多少セーブしながら当初の予定通り進めていくかで悩んだが、冬場好調であり自分も手ごたえを感じていたので予定を変更して積極的に練習させていった。結果としては下級生を乗せていくうちに半澤杯前から跛行がでてくるようになり必要な練習が出来なかった。それで半澤杯と新緑大会はパスし、6月の春季大会に必要な最低限ギリギリの練習をして下級生を使った。そのあとネイチャーヒーラーとログキャビンの調子が悪く、総合の団体が危うくなったのでこの時点で北日学の総合に山川で出場することにした。選手権に使った後治療目的で2週間休ませて、国体予選と北日学に使った。治療は主にストレッチと曳運動、温浴を行ったが国体予選前の7月下旬には大分跛行がなくなっていった。

北日学対策は最低限の馴致とコンビネーション、あとは常歩で横運動を中心としたFwを行った。あとは筋肉と精神が固まらないように常に放牧に出してリフレッシュを図った。調教審査が上手くいったのは放牧が効果的だったと思う。特に音にビビる傾向があったので夜間放牧を多用した。これは競技へ行ってテンションが上がってしまう馬や落ち着きを知らない新馬にはとても効果があると思うので今後機会があれば取り入れてみたらどうだろうか。

つらつらと書き並べたが、振り返ってみるととても多くのことをヤスから学んだ気がする。練習場という位置づけとはいえ自分にとっては偉大な先生だったと思う。そして下級生（とくに今の3年目）と一緒に練習・ケアをしてきたので学んだものをぜひ他の馬・そして後輩へと伝えていってほしい。

北彗号離厩特集

◆北彗（メジロゲネシス）◆

セン サラ 芦毛

平成5年5月30日生

伊達市メジロ牧場産

父 メジロティターン

母 メジロマリア

平成10年11月8日入厩

平成23年11月12日離厩（旭川乗馬クラブへ）

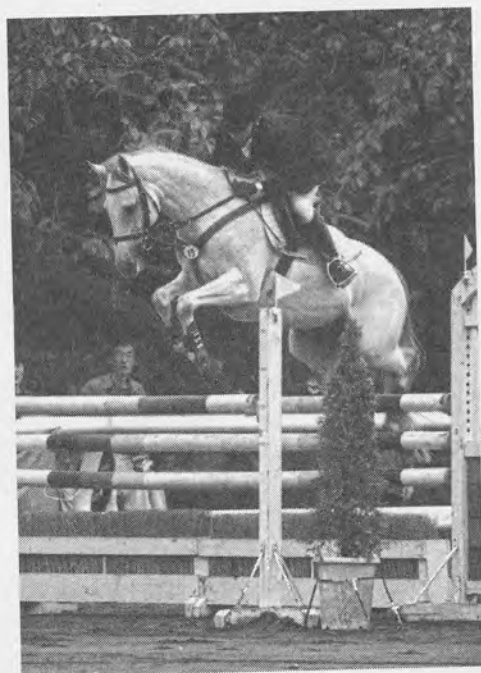
<全日学成績>

9年連続出場

平成14年	総合29位	木村滋之
平成15年	総合12位	木村滋之
平成16年	総合37位、障害	一色真明
平成17年	総合、障害	一色真明
平成18年	総合42位、障害22位	一色真明
平成19年	障害	宮本亮
平成20年	総合	出戸裕人
平成21年	総合、障害	出戸裕人
平成22年	総合22位	出戸裕人



H15全日学 木村滋之



H18全日学 一色真明

メジロゲネシス号の離厩によせて

尾崎 哲 浩 (平成12年卒)

卒部してからもう10年以上になると思うが、今頃になってメジロゲネシスの離厩によせて原稿を依頼されることになるとは夢にも思っていなかった。北大馬術部で長い間活躍することができたことは、非常に多くの方からの協力、私の後を引き継いでくれた優秀な後輩のおかげであろうと思う。

いつの世代も大なり小なり主力馬の高齢化と新馬の育成に関する問題を抱えていると思うが、我々の世代でも次代を担う新馬を如何に探し出し、育成していくか、非常に苦労した記憶がある。同馬が北大にくることになったのも、主将になったばかりの川崎が秋の大会の折に北星乗馬クラブの村上社長にお願いしたことがきっかけだった。村上社長の非常なご厚意により同馬を得られたことは、北大馬術部にとっては大変貴重なことであり、感謝申し上げたい。

入厩後の暫くは、ひとつ上の角堂兄に面倒を見てもらっていたが、川崎主将になんとなき丸めこまれて、4年目の4月頃から手綱をとることになった。今から思えば、私の貧弱な馬術経験と未熟な技術できちんと調教できる筈もなかった。同馬の能力の高さは実感していたが、うまく制御する技術がついていかなかった。今の現役には信じられないかもしれないが、その頃から早々と離厩の候補に挙がっていた。能力の高い馬が、拙い乗り役の手によってその能力を発揮できないまま衰退していくのを見かねてか、幸いに周囲からのたくさんの協力があった。札幌競馬場の高橋先生、ライディングファーム・フセの山口さん、当時JRAに勤務されていた布施勝さんらに騎乗してもらい、多くの助言を頂いた。特に、布施さんには2日間ほどだったと思うが、非常に密に指導していただいた。基本的なことだと思うが、馬に跨る以前の「しつけ」に関して指摘を受けたことがとても印象的で、根本から調教を分かっていたと痛感した。同馬の競技生活と比較すると短い期間だったが、その後の活躍の礎となったと思う。

私自身はメジロゲネシス号の活躍に少しも貢献できなかったが、内外からの温かい支援により、何とか次代に引き渡すことができた。部報の紙面上で大変恐縮ですが、メジロゲネシスに関わったすべての人に感謝申し上げます。ありがとうございました。

ゲネシスの離厩に寄せて

木村 滋 之 (平成16年卒)

なんとまあ、強運の持ち主だろうと思う。この馬は。

道内乗馬クラブのスタッフを振り落として怪我をさせ、そんな危険な馬は乗馬クラブでは使えないということで、北大に来ることになったのがゲネシスだ。

そんな馬が、13年という時を経て、また道内の別の乗馬クラブで使ってもらっている(?)のだから、こいつうまく生きて来たなーと思う。いや、この馬自身は(バカだから)何も考えていなかったと思うが。

物見をしやすいビビりの精神薄弱者で、何かあるとすぐに背中を緊張させ、キレキレな跳ねをして見せてくれるこの馬は、とても下級生に安心して乗せられるような馬ではなく、常に離厩を考えなければならない存在であった。唯一、彼が北大馬術部に在籍し続けることが出来る条件は、競技馬として結果を残し続けること。そんな事情を知ってか知らずか、結局彼は、北日学デビューの年から9年連続で全日学に出場するという結果を残し、故に13年間という長い間、北大馬術部に籍をおくことが出来たのである。

決して北日学や全日学で常に安定した成績を残してきた訳ではないのだが、なんだかんだで競技馬として活躍し続けることが出来たのは、実力以上に、この馬の持っている何ものかのお陰であるような気がしてならない。

そして、そんな馬に巡り会うことが出来た私も、本当に運が良かったと思うのである。

彼の離厩に際して、いろいろとご尽力いただいた方々には、心より感謝申し上げる。まさか、道内に貫い手がいるとは思っていなかった。

最後に一言。

ゲネ、そろそろ頭を使ってちゃんと仕事しろよ。

いつまでも運が続くと思うなよ。

北彗号離厩に寄せて

一 色 真 明 (平成19年度卒)

まずはゲネ、本当にお疲れ様。思えば彼はずっと「結果」という使命をその華奢な背中に負ってきた様に思われます。調教報告でも散見された言葉です。この使命を果たすのが難しくなった今、高齢ということもあり離厩となったのは仕方ないことだと思います。現役にとっても苦渋の決断だったでしょう。

私は馬術部の3年間をゲネシスの鞍上で過ごしました。卒部後も札幌にいる間はOBとして関わらせてもらいました。私の馬術部生活はゲネシスと共にありました。良いことも悪いことも、多くの事をゲネシスから学びました。彼を通して今思っている事を書きたいと思います。

私はゲネシスという能力ある馬に乗せてもらい、学生とはいえ日本の頂点を垣間見させてもらいました。最後の全日学二走の最終ライン、あのトリプルは今も感覚が鮮烈に残っています。一走目も二走目もそれぞれが最高の飛越でした。ここまで上って来られたのも、ゲネシスとそれまでゲネシスに係わった方々や馬術部のOBや部員の方々のおかげです。本当に感謝しています。

この馬術部での感謝にどう応えられるのか。恩返しは、後進の新馬や後輩達にその経験を伝え継ぐことだと考えています。ゲネシスに教えてもらった馬術のいろはは、新馬の調教を通じて少しは次世代の馬に恩返しできたのではないかと考えています。では一方で、人間関係ではどうだったか。私が1年目の冬にゲネチーフを木村兄から引き継いだとき、私はまったく何もわかっていない1年坊主でした。そんな私に木村兄は様々なことを丁寧に指導してくださいました。本当に感謝していますし、今でも兄には頭が上がりません。対して私は、教わったこと、自分の経験を後輩に上手く伝えることができたのか？私が馬術部で最も後悔しているのは、優秀馬匹賞が取れなかったことと、後輩に上手く経験を伝えられなかったことです。幸いにも、ゲネシスには馬術経験者の腕の立つ後輩たちがチーフとなり、彼らの実力でちゃんと全日学まで活躍してくれました。しかし、難しい馬だけに悩みも多かったことでしょう。そんな彼らにもっと力になってあげることができたのではないかと考えています。若いOBにはそういった失敗はしてもらいたくないのです。馬術部のたった4年間の内に全国で戦うためには、それまでの北大馬術部で同じ道を通ってきた先輩諸兄の経験は大きな武器になるはずです。これを生かさない手はありません。私は馬場や競技場に実際に足を運んでくださったOBの方々に支えられて、ここまでこられたと思っています。卒部したばかりの若いOBには暖かく現役をサポートしてもらいたいと思っています。色々立場はあると思いますが、もちろん私も含め押し売りはダメだと思います。現役もOBの言うことに一度は耳を傾けてみてください。そのあとで、どう判

断するかは現役の自由です。主役は現役の皆さんですから。

ゲネシスについての寄稿なのに自己本位な懺悔というか生意気なOB論に脱線してしまいました。すみません。幸いにも、このGWに彼に会いに行くことができました。スタッフさん達の話では会員さんや子供達を乗せて、しっかりお役目を果たしているようです。子供を乗せて大人しく障害を飛んだり、部班では存在感が無いほど静かだったり、他の馬と仲良く放牧に出たりと北大ではちょっと考えられない活躍ぶりだそうです。競技馬として「結果」というプレッシャーから解放されて、ようやく本来の性格を取り戻せたのかもしれません。3年間毎日と共にしたゲネシスが北大から離厩してしまうのは正直さびしく思います。しかし、先日の穏やかなゲネシスの顔を見て安心しました。新たな舞台で多くの人に愛され、少しでも長く乗馬として活躍することを祈念し、拙稿を終えたいと思います。

ありがとう。



北海道大学水産学部馬術部

部長 田中千尋

私たち水産学部馬術部は、平成24年度現在で院生4人、4年生12人、3年生7人の計23人で鋭意活動しております。活動としては函館競馬場の乗馬センターにて、JRA職員の先生4名のご厚意による懇切丁寧な指導のもと一所懸命練習に励む日々を送っております。私たちは全学馬術部と異なりJRAが管理する普及馬をお借りしているため、自馬を持っているわけではありません。そのためお世話になっている函館競馬場ならびにその職員の先生方に日々感謝をしつつ、乗馬技術の向上の為一人一人が向上心と責任感をもって活動しております。馬術初心者が多く大会経験も縁浅い私たちですが、参加できる試合を一戦一戦大切にして重ねていくことで、モチベーションを維持し馬術の楽しさ奥深さを実感しながら日進月歩で励んでおります。今年は副部長の和田が、平成24年度全日本学生馬術女子選手権大会への出場を決め、二回戦まで進めることができました。応援に来て頂いたOB・OGの方々に感謝するとともに、技術面で他大学と遜色ない高いレベルの練習を受けているのだという自覚と向上心を再確認致しました。最後になりますが、同じ北海道大学の馬術部として今後もより一層連携を密にして交流を深めることができればと考えております。両馬術部の更なる発展と向上を心よりお祈り申し上げ、活動報告とさせていただきます。



卒部にあたって

● 江口 遼太 (獣医・主将)

四年間の馬術部生活を終え、毎日馬に乗って作業をし、週末にはバイトをしていた日々が懐かしく感じられます。こんな忙しい馬術部生活でしたが、終わってみるとそこから多くのことを学ぶことが出来たと思います。私に多くのことを教えてくれた先輩や後輩、OBや馬関係者の方々、そしてたくさんの馬たちに本当に感謝しています。

一年生のころから全日学を目指して馬に乗り、最終的には二度も全日学に出場させていただきましたが、それも馬に恵まれたおかげです。馬への騎乗に関しては、馬に教えたことは少なく馬に教えてもらったことがいかに多かったかと今になって感じます。たくさんの方々に教えてくれ、パートナーとしてともに競技に臨む馬たちの存在のありがたさを理解し、それに感謝し責任を持って馬の世話をする姿勢を現役部員には忘れないでほしいと思います。また、馬術部を運営する上でバイトや大会、合宿などで多くの馬関係者の方々やOBの方々にお世話になったことで、自分たちがいかに周りの方々に支えていただいているかということに気づくことが出来ました。常に自分を支えてくれている方々への感謝を忘れず、それを行動に示せる人間でありたいと思って馬術部生活を送ってきましたし、これからもそうありたいと思っています。

そして、自分がこの四年間で最も大切だと感じ、現役部員にも伝えたいのが一緒に活動する仲間のありがたさです。部活は当然一人ではできませんし、得手不得手があり考え方の違う仲間同士が補い合うことで成り立っています。私たちの学年も考え方の違いからぶつかり合うことがありましたが、そういった時には相手を尊重することを意識してきました。相手の意見を理解しようと努力すること、自分の意見を理解してもらおうと努力することが重要だと思います。山あり谷ありの馬術部生活でしたが、今では私に足りない面を補ってくれたドンパのみんなには感謝しかありません。これからの現役部員が馬だけでなく人も大切にしていってくれることを願います。

長々と書いてしまいましたが、これからの馬術部がみんなにとって楽しく充実したものになるように祈っています。四年間本当にありがとうございました。



江口兄と北菓

● 加藤 亜也奈 (農・主務)

馬とともに過ごした3年半、現役のときは1日1日が長く感じておりましたが、卒業してしまうとあっという間であったと思います。

振り返ってみて、一年生のときの乗ることがただ純粹に楽しかった気持ちを思い返して、切なくなっていました。馬配ダッシュが懐かしいです。

上級生になって考えることが多くても固執せずに、気を楽しんでいけば良かったのかなと後悔しています。

馬術部での生活は、楽しいこともありました。辛いことも悲しいこともあり、また、色々な人、馬と出会い、沢山のことをそれぞれから教えていただきました。この思い出はこれからも大切なものとして心のなかにしまっていきます。

いつも応援して下さったOBの皆さま、乗馬関係者様、頼りない私を頼ってくれた後輩のみんなに感謝致します。

最後に、入部からともに切磋琢磨しあったドンパのみんなに感謝致します。ドンパのみんなが時に厳しいことを指摘してくれたり、お互い競い、励まし合ったことが大きな支えになったと思っています。気難しい私に付き合ってくれて、本当にありがとう。



加藤姉と北椎

● 西村 英里 (獣医・馬匹)

私が馬術部に入った四年前、思っていたことは「間違えた！」でした。

私は大学に入る前から動物が好きというただそれだけの理由で、北大の獣医学部に入学し、馬術部に入ろうと決めていました。もちろん受験後の体験乗馬にも行き、入学してすぐ馬術部に遊びに行きました。そこまでは良かったのですが…私は「体育会系馬術部」という物を完全に勘違いしていました。パカパカ乗ってみんなで楽しく…なんて幻想すぐに打ち砕かれました。

部活に入って行ってからは、朝はしんどいなあと思いながら起きて部活に行き、部活中は馬かわいいなあと頑張って、眠いなあと思いながら学校で寝て、めんどくさいなあと思いながら夕当に行き、疲れ果てて寝る毎日でした。始めは辛いだけだった大会も、先輩が本気で全日を目指している姿を見ていると、ああこういう人と

同じ部活に居られるのは幸せだなと思うようになっていました。いつしか馬中心の生活に馴染み、毎朝馬に会いに行くのが待ち遠しくなりました。それからというもの、運動神経の無い私は少しでも上手くなろうと部活中はただただがむしゃらに、休み期間やバイトの無い土日に見つけては競馬場乗馬センターや乗馬クラブに乗りこいました。結局、大会で特に結果らしい結果を残してない私ですが、辛いことや楽しいことをたくさん経験し、部活を最後まで続けたことで自分にとって一生ものの濃い経験が出来ました。

毎朝5時集合で、冬は吹雪でも関係なく続行するようなキツイ部活はもうこりごりですが、馬や部員と過ごしたあのポロくさい生活は、振り返ってみれば愛すべき宝物のような時間だったと思います。本当にお世話になった皆様、馬たちありがとうございました。

最後に一言。シンコウ、フォルツァ、ジーニアス大好きだ！



西村姉と北兎

● 宮田昇太(農・後援会)

4年間の馬術部員としての活動はあっという間に過ぎ、いつのまにか卒部を迎えました。何気なく馬術部に見学に行ったとき、先輩の方々が馬術競技に真剣に取り組み、なおかつやさしく馬に接している姿に感動し、入部を決めた記憶があります。入部してからは作業が多く辛い部活だったと思いますが、馬が好きという思いつく良い先輩・同期・後輩に恵まれたこともあり部活を続けることができたと思います。馬っていいな、馬術部に入って良かったなと胸を張って言えます。卒部を迎えるにあたってこれからはOBの一人として、北大馬術部を応援していきたいと思っています。ありがとうございました。



宮田兄とチェリーアドミラル

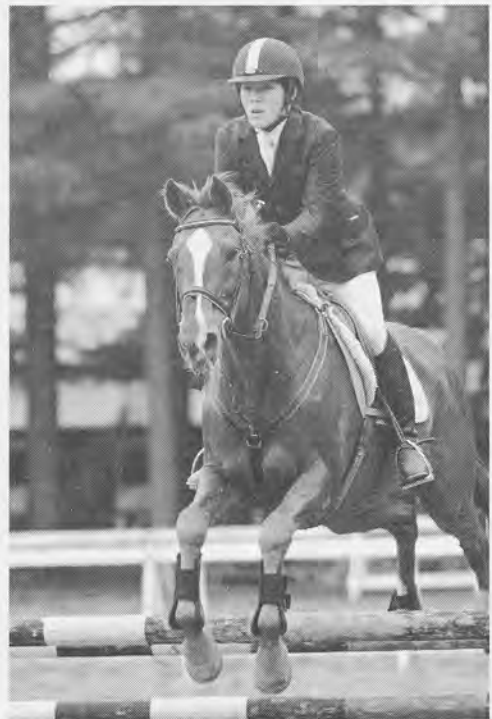
● 柳 田 睦 仁 (農・北日幹事)

2009年から2012年までの4年間、思い起こすといろいろなことがありました。社会では2011年に大きな震災があり、馬術部ではそれまでの看板馬が引退していき、変わるように、新しい馬たちが競技で活躍するようになってきました。また体育会の部活を取り巻く環境も大きく変化してきて、部活の雰囲気・部員の質もだいぶ変わってきたのかなと感じています。その中でも変わらずご支援いただいた、OB並びに関係者の方々にはこの場を借りて御礼申し上げます。

現役の皆さんに一言申し上げるとするならば、体育会馬術部は常に結果を求められることを忘れてはならないと思います。試合成績はもちろん、よい運営をしていかなければなりません。当然、馬術部は現役が作っていくものですから、個々人が集団の一員として高い意識をもって臨んでほしいと思います。技術では劣るかもしれないが、それを補い、プラスに変えていくような知性と行動力を身に付けてほしいと思います。ただその能力を如何なく発揮するためには、馬術部に入部したころの誠実さを忘れないでほしい。特に上級生になるにつれていろいろな考えをもって物事を決めなければならないが、その時は一度馬術部に入部した時の自分に聞いてみてはどうでしょうか。

また社会全体として寛容ではなくなってきていますし、価値観が多様化していく中で、井上部長を筆頭としたOB・関係者の方々の馬術部における位置づけはますます重要なものとなっていき、これまでのように年数回の定例会での交流だけでは難しくなっていくと思います。いろいろ現役がご迷惑をおかけすると思いますが、変わらぬご支援を頂ければと思います。

これから創部90周年・100周年を迎えようとする北海道大学馬術部のますますの繁栄を願ってやみません。



柳田兄と北柊

● 山川 晃 平 (獣医・蹄鉄)

ドンパの中で名前の順でやると一番最後にくるので、この四年間ですっかりオチ担当になってしまいました。本当はもっとまじめに馬術について語りたいのになあ。

さて、現役を終えて思うのですが、馬術部生活で大事なものに、三つの「ンパ」があると思います。一つが、「ドンパ」。この学年のドンパはよく言えば個性的、悪く言えば協調性に欠けていました（僕が筆頭かもしれませんが）。しかしやはり共に色々なことを経験するにつれ、それぞれの役割や活かし方、扱い方など本当にお互いのことがよくわかってきました（理解し合うのとは別）。馬術部員はその密な関係の中で、馬よりむしろ対人で悩むことが多いでしょう。そんな部活ではドンパを大切にすることは他の運動部よりも重要なことであるように感じます。次に二つ目が「センパイ」。特にOBのことを言いたいのですが、馬術部員は自分の考えに固執してしまったり、狭いコミュニティの中で視野が狭くなりがちです。特にコーチがないという特殊な北大では、このOBの方達に意見を求めることがとても大事だと思います。三つ目が「コンパ」。馬術部員は常に睡眠不足です。日常生活も暗くなりがちで、ドンパの項目でもふれたように人間関係での問題はつきません。たまのコンパのときに普段では話せないようなことを話したり、お互いの距離を縮めることはとても大切なことだと思います。元企画係りとして、飲み会の重要性を強調しておきます。そしてまだ四つ目に幻の「〇ンパ」がありますが、部報にのせるべき内容ではないので割愛させていただきます。コンパと同じく、たまには羽目を外してみるのも、大事なことのように思います。

卒部にあたって、他のドンパが書いてくれているでしょうが、本当にたくさんの人、馬に感謝しています。今こうして思い浮かんでくる人たちのことを僕は一生忘れないでしょう。みなさん本当にありがとうございました。

それでは最後の「ンパ」です。自分自身、そしてドンパたちの門出を記念して、また、北大馬術部のますますの健勝を祈念して、「カンパイ」！！



山川晃と北凜

部 員 紹 介

3年目

◎ 高 居 名 菜



学部	獣医学部
好きな馬	らぶりーノダちゃん、ゆらゆらロイヤル
馬術部に入ってよかったこと	私はこれから先何事にも耐えられるんじゃないかと思える自信を得ました
馬はあなたにとってひとこと	大事なことをいろいろ教えてください
ひとこと	あとひといき

◎ 平 芳 悠 人



学部	理学部
好きな馬	ゲネ・スペ
馬術部に入ってよかったこと	毎日が忙しい
馬はあなたにとってひとこと	癒し
ひとこと	あー、疲れた…

◎ 松 尾 慧



学部	文学部
好きな馬	シンコウ
馬術部に入ってよかったこと	シンコウに出会えたこと
馬はあなたにとって	人生
ひとこと	目標四年間無遅刻無欠席

◎ 梶山 恭子



学部	工学部
好きな馬	のだ
馬術部に入って衝撃だったこと	色々汚い
馬はあなたにとって	癒し
ひとこと	のだは元気だろうか

◎ 小山 寛



学部	工学部
好きな馬	フラッグ、ネイチャー
馬術部に入って衝撃だったこと	馬の気持ちが分かるようになったと思ったら、全然分かっていなかったこと

◎ 笹原良平



学部	工学部
好きな馬	ネイチャー?
ひとこと	考えるのがめんどくさい

◎ 佐藤詩織



学部	獣医学部
好きな馬	あひる
馬術部に入ってよかったこと	馬が大好きになったこと
馬はあなたにとって	一言じゃ表せない
ひとこと	なんだかんだで、この部に入ってよかったと思う。もっと頑張ろう!

◎ 東 谷 貴



学部	工学部
好きな馬	北創
馬術部に入ってよかったこと	毎日が充実してること
馬はあなたにとって	悩
ひとこと	インドアが欲しい

◎ 藤 村 伊 咲



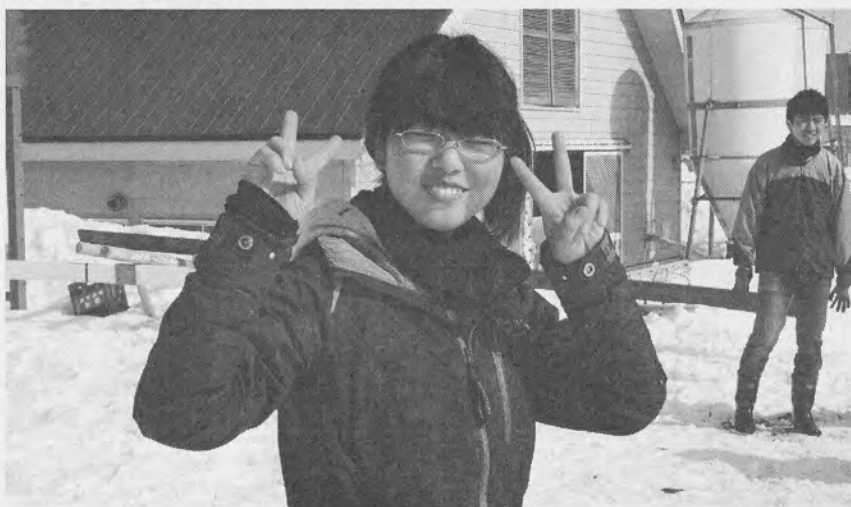
学部	農学部
好きな馬	なし
馬術部に入ってよかったこと	家から馬場が近いこと
馬はあなたにとって	かわいくてたまにうざい
ひとこと	よろしくお願ひします

◎ 松村 萌美



学部	農学部
好きな馬	チェリーさん
馬術部に入ってよかったこと	馬を好きになれたこと
馬はあなたにとって	愛情を注ぐべき相手
ひとこと	これからもチェリーさんを愛し続けます

◎ 新谷理紗



学部	農学部
好きな馬	フォルツア
馬術部に入ってよかったこと	どこでも寝られるようになった
馬はあなたにとって	兄弟
ひとこと	体力がもつ限りこき使ってください

◎ 中津裕太



学部	農学部
好きな馬	のだ
馬術部に入ってよかったこと	いろいろな人がいること
馬はあなたにとって	友達くらい
ひとこと	もっとうまく乗れるようになる

◎ 林 はるか



学部	水産学部
好きな馬	ネイチャー、マリオ
馬術部に入ってよかったこと	馬を好きになったこと
馬のここが好き	いっぱいありすぎた。とりあえずぱくぱくするところ。
ひとこと	象とシンベイザメは憧れで好きなのは馬で飼いたいのはイグアナです。

>>>NORTHERN HORSE PARK
 Heating Garden
 四季の彩りと 大地の恵み 自然を楽しむ 贅沢な休日
 ノーザンホースパーク
NORTHERN HORSE PARK
 〒059-1361 北海道苫小牧市美沢114-7 TEL0144-58-2116 FAX0144-58-2377
 www.northern-horsepark.co.jp
 新見学厩舎 4月オープン!

ノーザンファーム 騎乗スタッフ募集
 馬術で鍛えた技術を
 競走馬に活かしませんか?
 未経験者研修制度あり
 ◇お問い合わせ (平日 9:00 ~ 17:00)
0145-22-3453
 (担当者 / 坂崎)
Northern Farm 〒059-1432 北海道勇払郡安平町早来源武 275
 TEL 0145-22-3453 FAX 0145-22-3222



SOEN
DRIVING SCHOOL

北海道大学から
一番近い自動車学校。

北海道大学

桑園自動車学校

桑園駅



オートマチック教習はすべてプリウス



道内初 電気自動車リーフ
※路上教習の一部に使用

北海道公安委員会指定校・技能試験免除校



桑園自動車学校

札幌市中央区北8条西14丁目（JR桑園駅前・イオン桑園店屋上）

Tel (011)271-7511

インターネット・携帯電話アドレス

<http://www.soen-driving-school.co.jp>



編集後記

初めに、発行が当初の予定である4月から大幅に遅れてしまったことを、心よりお詫び申し上げます。

2012年度は、馬の出入りが多い一年間でありました。北大にいる馬が高齢化していく中で新馬を調教することは急務であるのではないかと思います。

なお、本来であれば昨年度掲載するはずだった北彗号の離厩特集を今年度に掲載させて頂きました。楽しみにして下さった皆様、大変長らくお待たせいたしました。

また、ここ数年部報の発行が遅れ、ついに丸1年遅れてしまったので、今回は二年分をまとめて発行することとなりました。今後はこのようなことがないように、しっかりと後輩に引き継ぎをしていきます。

最後になりましたが、広告掲載させていただいた企業の皆様、お忙しい中、北彗号の離厩特集に寄稿して下さったOBの方々を始め、日々部を支えてくださっているOBの皆様、編集を手伝ってくれた現役部員に心から感謝申し上げます。

今後とも、北大馬術部をどうぞよろしく願いいたします。

松村 萌美

北海道大学馬術部部報 第58号 平成26年 7月発行

編集者 北海道大学馬術部部報担当

松村 萌美

印刷所 ひまわり印刷株式会社

〒065-0030 札幌市東区北30条東6丁目2-1

発行所 北海道大学馬術部

〒001-0023 札幌市北区北23条西12丁目

TEL・FAX 011-737-1626

銀行口座 北洋銀行 391-1-0443731

表紙元写真撮影者 井上 京

